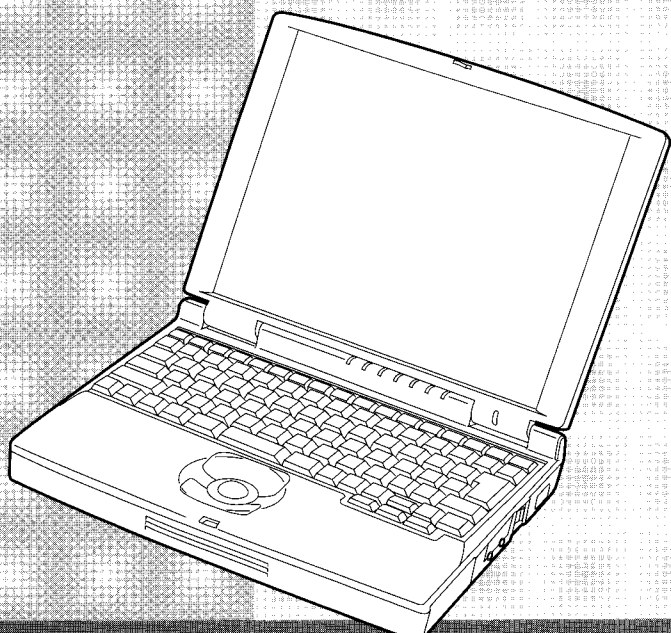
Panasonic

パーソナルコンピューター
取扱説明書
品番 AL-N2T520J5

Let'snote

必ずはじめにお読みください

上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびはパナソニックパーソナルコンピューターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
・この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

この製品にインストールされているソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことがご使用の条件になっております。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

・本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。なお、充電されたバッテリーパックを装着して使用される場合、瞬時電圧低下に対して支障なくお使いいただけます。（詳しくは、本文をご覧ください。）
・漏洩電流について、この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

ソフトウェア使用許諾書

第１条　権利

お客様は、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、付属のフロッピーディスク、マニュアルなどに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客様に移転するものではありません。

第２条　**第三者の使用**

お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第３条　**コピーの制限**

本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第４条　**使用コンピューター**

本ソフトウェアは、コンピューター１台に対しての使用とし、複数台のコンピューターで使用することはできません。

第５条　**解析、変更および改造**

本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。また解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店等は責任を負いません。

第６条　**アフターサービス**

お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第７条　**免責**

本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第６条のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店等はその責任を負いません。また、この製品に付属されている「保証書」はコンピューター本体（ハードウェア）の保証に限定したものです。

第８条　**その他**

上記第６条のアフターサービスには、付属の「ソフトウェアサポートカード」が必要です。本ソフトウェアのバックアップと併せて大切に保管してください。

もくじ

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

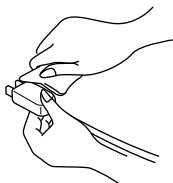
■表示内容を無視して誤った使い方をしたとき生じる危害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠ 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で、説明しています。（下記は、絵表示の一例です）

絵表示	内容
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

●電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
長時間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない

たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

⚠ 警告

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

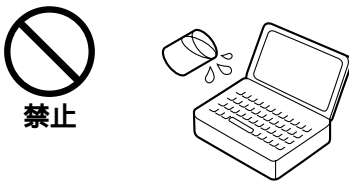
本機を改造しない また、本書に記載のない方法で本機を分解しない

分解禁止

高電圧に注意
サービスマンの方以外は分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、感電のおそれがあります。

[本体に表示した事項]

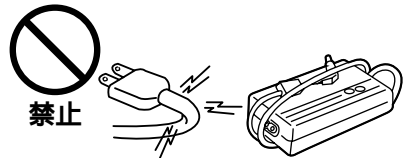
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。また、改造や分解は火災の原因にもなります。

上に水の入った容器や金属物を置かない

禁止

水などがこぼれたり、クリップ、コインなどの異物が中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。

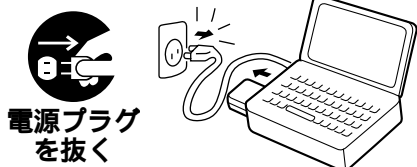
- ●内部に異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切って電源プラグを抜き、販売店にご相談ください。

電源コード・電源プラグ・AC アダプターを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

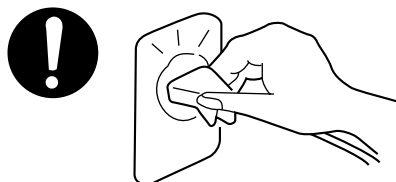
- ●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

⚠ 警告

異常が起きたらすぐに電源プラグとバッテリーパックを抜く

- 本体が破損した
- 異臭がする
- 本体内に異物が入った
- 発熱している
- 煙が出ている

などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。

●異常が起きたら、すぐに電源スイッチを切って電源プラグを抜き、販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

●傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠ 注意

不安定な場所に置かない

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

本機の上に重いものを置かない

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

1時間ごとに10～15分間の休憩を取る

長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

必ず指定のACアダプターを使用する

指定以外のACアダプターを使用すると、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

電源コードはプラグ部分を持って抜く

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

禁止

火災・感電の原因になることがあります。

電源プラグを接続したまま移動しない

禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

●電源コードが傷ついた場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響力を与えることがあります。

炎天下の車中に長時間放置しない

禁止

高温により、キャビネットが変形したり、内部の部品が故障または劣化したりすることがあります。
このような状態のまま使用すると、ショートや絶縁不良により火災・感電につながることがあります。

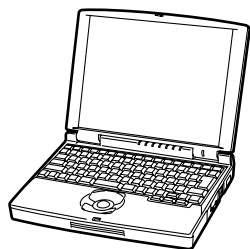
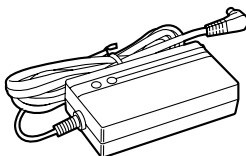
通風孔をふさがない

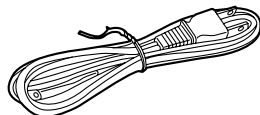
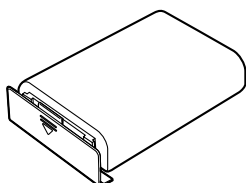
禁止

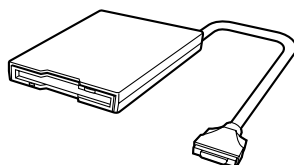
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

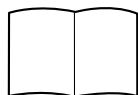
梱包物の確認

下記のものがすべてそろっているか確かめてください。
万一、足りない場合、または購入したものと異なる場合は、お買い上げになった販売店にお確かめください。

本体

AC アダプター

品番： CF-AA1526

電源コード

バッテリーパック（2 本）

品番： AL-NFBL020J

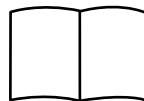
外付け フロッピーディスクドライブ

品番： AL-NFFE020J

Windows95 パック

ファーストステップガイド

Windows95 CD-ROM
Internet Exploere CD-ROM

ユーザーカード

取扱説明書

（本書）

その他の印刷物

- ●保証書
- ●ご愛用者登録カード／ソフトウェアサポートカード

各部の名称と働き

前面／側面

LEDインジケーター

NumLK ・ CapsLK ・ ScrLK インジケーター
　機能時：緑色
HDDインジケーター
　HDD動作中：緑色
BATT（Battery）インジケーター A/B A–▯–B
　バッテリーパックの充電状態を表示します。（P.38）
POWERインジケーター
　電源ON時：緑色

空気吹き出し口

使用中温風が出てくることがあります。ふさがないでください。

PCカードスロット

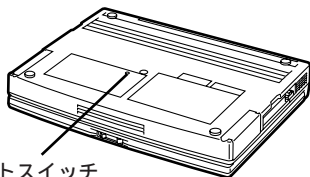
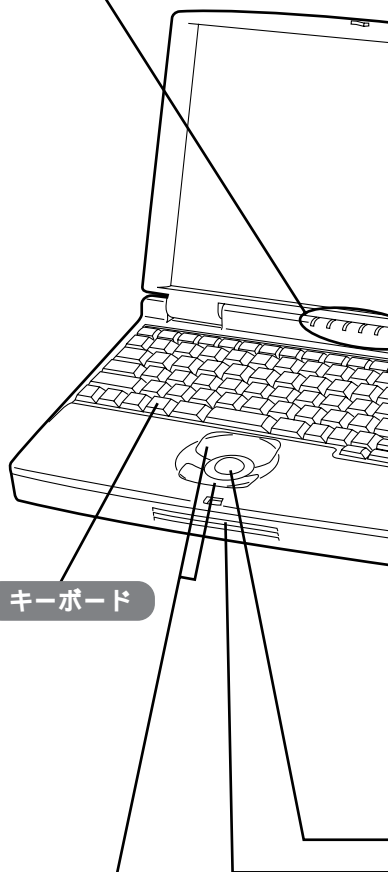
JEIDA規格に準拠したカード（PCMCIA）をセットします。

バッテリーパックA挿入口

ここから、バッテリーパックを装着します。バッテリーパックは、ACアダプターを接続しない場合に本体の電源となります。

キーボード

リセットスイッチ

コンピューターが動かなくなって操作できなくなったときに、先の細いもので押すと電源が切れます。そのあと電源スイッチを押してください。

リセットスイッチ

クリックボタン

トラックボールを使って操作するとき、ここを押すとメニューの選択などができます。

オープンラッチ

ここをスライドさせてディスプレイを開けます。

ディスプレイ

パネルスイッチ

ディスプレイを閉じると、このボタンが押されて、自動的に画面が消えます。（またはサスペンドします）ディスプレイを開けると、再び画面が表示されます。（またはリジュームします）

赤外線通信ポート

赤外線通信を行うときに使用します。

電源スイッチ POWER ▶

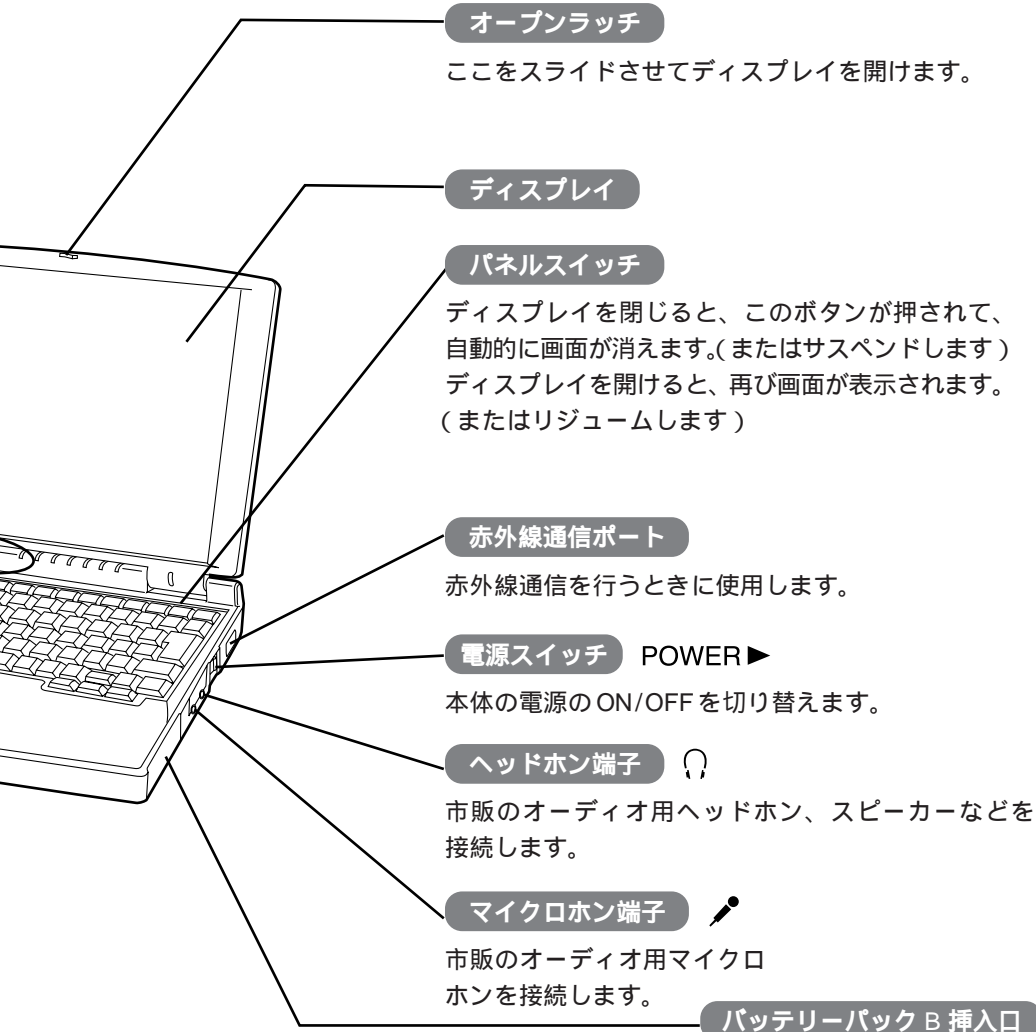
本体の電源のON/OFFを切り替えます。

ヘッドホン端子

市販のオーディオ用ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

マイクロホン端子

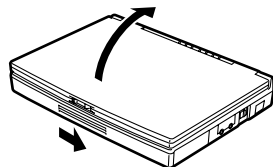
市販のオーディオ用マイクロホンを接続します。

バッテリーパック B 挿入口

トラックボール

ボールを前後左右に回転させると、カーソルがその方向に動きます。

内蔵スピーカー

◆ディスプレイを開ける

ディスプレイの手前にあるオープンラッチを右にスライドさせ、ディスプレイを上にあげます。

背面

◆お手入れのしかた

- **ディスプレイ部分**
  ガーゼなどの柔らかい布にイソプロピルアルコールやエチルアルコールを十分に浸み込ませて、軽くふきとります。アセトンなどのケトン類やキシレン、トルエンなどの芳香族類の溶剤は使用しないでください。
- **ディスプレイ以外の部分**
  柔らかい布に水または薄めた台所用洗剤（中性）を含ませて固くしぼってから、やさしくふきとります。
  ベンジンやシンナーなどの溶剤を使用するのは避けてください。また、化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ほこりは、掃除機で吸い取るなどして取り除いてください。

キーボード

本機のキーボード配列は、JIS に準拠しています。文字入力キー以外にいろいろな機能をもつキーがあります。

テンキー

外部キーボードやテンキーパッドが接続されていないときに、［Shift］キーを押しながら［NumLK］キーを押してテンキーを有効にすると、数字が入力できるようになります。

ファンクションキー

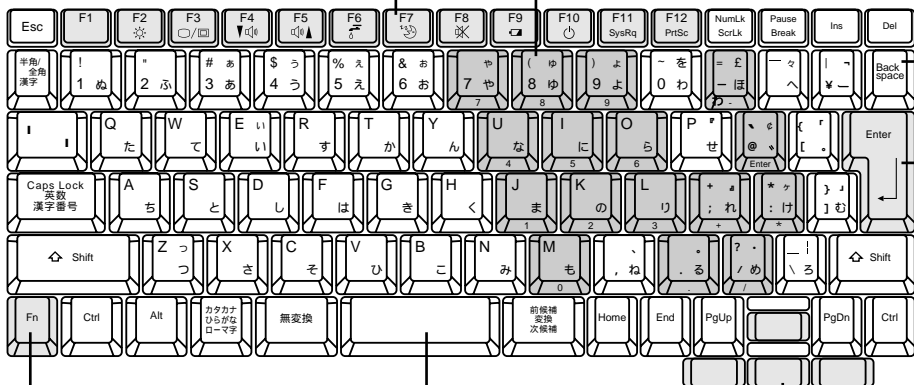
使用するソフトウェアによっていろいろな役割を持たせています。

Backspace キー

文字入力のときに使用します。カーソルの左側の文字を消します。

空白（スペース）キー

文字と文字の間に空白（スペース）を入れるときに使用します。

カーソル移動キー

カーソルを動かすときに使用します。

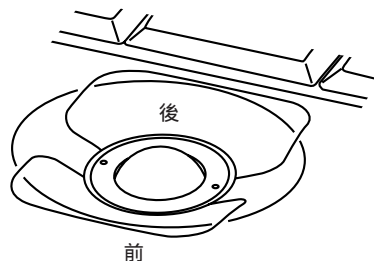
Fn キー

他のキーと組み合わせて押すことによって、特殊な機能を有効にします。（P.39）

Enter（リターン）キー

命令やデータの区切りに押し、入力した情報をコンピューターに伝えます。

トラックボールとクリックボタン

画面の位置を指定して、コンピューターに命令を与える装置のひとつです。トラックボールとクリックボタンを組み合わせて使うと、別売りのマウスと同じ働きをさせることができます。Windows やマウス対応のアプリケーションソフト上で、画面上のメニューを選んだり、図形を描いたりすることができます。

トラックボール

前後左右にトラックボールを回転させると、カーソルが任意の方向に動きます。

クリックボタン

ここを押すと、メニューの選択などが行えます。前ボタンはマウスの右ボタンと同じ働き、後ボタンはマウスの左ボタンと同じ働きをします。

◆基本的な操作

クリック　：後または前ボタンを押して離す。
ダブルクリック　：後または前ボタンを続けて 2 回すばやく押して離す。
ドラッグ　：後または前ボタンを押したまま、トラックボールを回転する。

参考

●2 つのボタンの働きは、使用するアプリケーションソフトによって異なります。通常は後ボタンで動作します。
●操作方法の詳細は、『Windows ファーストステップガイド』を参照してください。
●トラックボールの動作を詳細に設定することができます。詳しくは、本書、解説編・環境の設定・各種設定を行う中の「トラックボールの設定をする」をご覧ください。

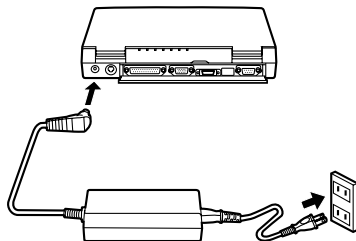
このトラックボールは、光学式トラックボールです。
光学式トラックボールは、通常の使いかたをしているかぎりはゴミやほこりなどによって動きは悪くなりません。

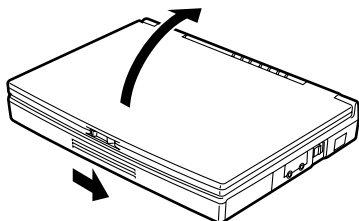
はじめかた・終わりかた

はじめて使うとき

本機には、Microsoft® Windows® 95（以降Windows）があらかじめインストールされています。ここでは、初めて電源を入れてWindowsの操作に入るまでの手順を説明します。

1. ACアダプターを接続する。

付属の専用ACアダプター（品番：CF-AA1526）を使用してください。それ以外のACアダプターや市販のカーアダプターなどは絶対に使用しないでください。
コンピューター本体にACアダプターを接続しないときは、コンセント側も抜いておいてください。
（本体にACアダプターを接続しないときでもACアダプターは約1.2 Wの電力を消費しています。）

2. ソフトウェア使用許諾書（P.3）の内容を確認し、同意する。

3. ディスプレイを開けて、電源を入れる。

① 電源スイッチの上に貼られたシールをはがす。（シールをはがすと使用許諾書に同意したとみなされます。）
② 電源スイッチを押す。

⚠ 注意

必ず指定のACアダプターを使用する

指定以外のACアダプターを使用すると、火災の原因となることがあります。

4. Windows95のセットアップを行う。

1.「ユーザー情報」画面が表示されます。名前と会社名を入力し、「次へ」をクリックしてください。会社名は省略することができます。
2.「使用許諾契約書」画面が表示されます。内容をよく読んだ後、「同意する」の左横の○をクリックし、「次へ」をクリックしてください。
3.「Certificate of Authenticity」画面が表示されます。付属の『ファーストステップガイド』の表紙に記入されている番号を入力し、「次へ」をクリックしてください。
4.「ウイザードの開始」画面が表示されたら、「完了」をクリックしてください。
5. 日付と時刻を設定する画面が表示されます。日付と時刻を設定して「閉じる」をクリックしてください。
6. プリンターを設定する画面が表示されます。プリンターを接続している場合は「次へ」をクリックし、画面の表示にしたがってプリンターを設定します。接続していない場合は、「キャンセル」をクリックします。
7. Windowsの画面が表示されます。

2回目以後のはじめかた

1. ディスプレイを開けて電源を入れる。

●画面に「Type your password, then press Enter」と表示された場合

セキュリティー設定で設定したユーザーパスワード（P. 48）を入力してください。

参考

パスワードの入力を3回間違えると電源が切れます。
また、サスペンド状態から復帰した場合は、入力を3回間違える、あるいは入力しないまま1分間が経過すると、再度サスペンド状態に入ります。

●アプリケーションやファイルがすぐに表示された場合

前回、サスペンドやハイバーネーション機能を使って操作を終えた場合（P. 49）、そのときに表示していた画面が表示されます。

2. 操作をする。

各種アプリケーションを起動し、操作をはじめてください。

終わりかた

1. **［スタート］→［Windows の終了］をクリックする。**

キーボードを使って終了する場合

Ctrl ＋ Esc を押してスタートメニューを表示し、[Windows の終了] を選ぶ。

2. **「電源を切れる状態にする」を選んで［OK］をクリックする。**

自動的に電源が切れます。

●電源を切らずに、起動しなおしたい（再起動）

［再起動する］を選んで、［OK］をクリックする。

お願い

電源を切った後、再度電源を入れる場合は、5 秒以上の間隔をあけてください。

システムディスクの作成のしかた

◆システムディスクについて

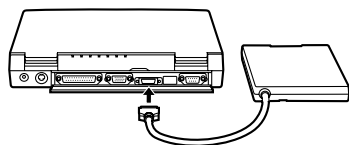
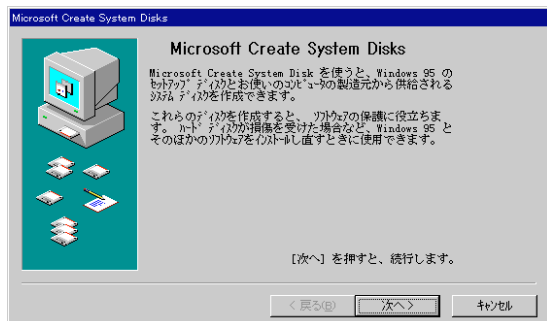
ハードディスクの内容が消えてしまったときなど、再インストールを行う必要が起こったときのために、必ず、システムディスクを作成しておいてください。

まず、1.44 MBでフォーマット済みのフロッピーディスクを準備してください。必要な枚数は、「Create System Disks」の［作成するディスクセットの選択］画面に表示されます。

お願い

- **システムディスク作成中にエラーが発生した場合は、「キャンセル」ボタンを押して「Create System Disks」を終了し、Windows 95を再起動してから再度実行してください。**
- 1.2 MBフォーマット（PC98フォーマット）のディスクは使用しないでください。
- 「AL-N2保存ディスク」と「Windows 95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」のラベルは同梱されております。他のラベルは画面に表示されるフロッピーディスクの名称をラベルに書いてフロッピーディスクに貼ってください。

1. **外付けフロッピーディスクドライブを取り付ける。**

2. **ディスプレイを開けて、電源を入れる。**
Windowsの画面が表示されます。

3. **「Create System Disks」を起動する。**
システムディスクを作成していない場合は、Windowsを起動すると、指定された起動回数ごとに（標準は5回に1回）「Create System Disks」の画面が表示されます。
Windows 95の初期画面から「Create System Disks」を表示させるには、スタートボタンをクリックし、［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］の順にポインタを置き、［Create System Disks］をクリックします。

4. システムディスクを順に作成する。

「次へ」をクリックすると「作成するディスクセット」画面が表示されます。
以下のディスクを順番に作成してください。

1. AL-N2保存ディスク
2. Windows 95起動ディスク
3. Windows 95 CD-ROMセットアップ起動ディスク
4. 再インストール補助ディスク
5. 各種ドライバー
6. Panasonicユーティリティ
7. Mouse Ware 95

参考

「Mouse Ware 95」以外のディスクは何度でも作成することができます。
ただし、一度、再インストールを行った後は、作成することができません。

5. 「Create System Disks」を終了する。

「Create System Disks」を終了するときは、「作成するディスクの選択」画面で「キャンセル」をクリックします。「Create System Disksの終了」画面が表示されますので、次回「Create System Disks」を起動するまでの回数を入力して「完了」をクリックしてください。自動的に起動しないようにするには、0を入力してください。

6. CD-ROMドライバーをコピーする。

◆Panasonic Slim PDドライブをお使いのかたは

- LF-1500J/LF-1500JDN（PCカード接続／パラレル接続）
- LF-1600JB（Panasonic SCSIカードCF-JSC201/CF-JSC301経由で接続）

上記のドライブを使用する場合は、ドライバーのコピーの必要はありません。
手順4で作成した「Windows95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」にはPanasonic Slim PDドライブのドライバーが、あらかじめ組み込まれています。
「Windows95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」を起動したときに、ドライブ選択メニューが表示されますので、使用するドライブを選択してください。

お願い

- Panasonic SCSIカードCF-JSC201/CF-JSC301は、上側のスロットにセットしてご使用ください。
- CF-JSC301は、CardBusモードで動作します。ご使用前に、ROM SETUPの「PC Card動作モード」を「CardBusモード」に設定してください。（P. 45）Windows95の最終設定（P. 71）をする前に、必ず「PC Card動作モード」を「PCIC互換モード」に設定し直してください。

◆ Panasonic 製の他のドライブをお使いのかたは

CD-ROM ドライブ： KXL-810AN, KXL-803A-N, KXL-800A-N
KXL-DN740A, KXL-DN720A, KXL-783A
PD ドライブ ： LF-1001JDN（付属の PC カード経由で接続）

上記の品番のドライブをお使いのかたは、手順4で作成した「再インストール補助ディスク」を使用して CD-ROM ドライバーをコピーします。作業前に、以下のフロッピーディスクを準備してください。

- 再インストール補助ディスク
- Windows 95 CD-ROM セットアップ起動ディスク
- CD-ROM ドライブに付属のフロッピーディスク

1. コンピューターの電源を切ります。
2. 「Windows 95 CD-ROM セットアップ起動ディスク」のライトプロテクトを「書き込み可能な状態」にセットします。
3. フロッピーディスクドライブに「再インストール補助ディスク」をセットして、コンピューターの電源を入れます。
4. CD-ROM ドライブの選択画面が表示されます。メッセージに従って、ドライブを選択してください。
5. 「CD-ROM ドライブに付属のフロッピーディスク」や「Windows 95 CD-ROM セットアップ起動ディスク」をセットするメッセージが表示されますので、メッセージに従って続けてください。
「Windows95 CD-ROM セットアップ起動ディスク」を起動したときに、ドライブ選択メニューが表示されますので、使用するドライブを選択してください。

◆上記以外の CD-ROM ドライブをお使いのかたは

「別売の CD-ROM ドライブに付属のフロッピーディスク」から「Windows 95 CD-ROM セットアップ起動ディスク」にドライバーをコピーし、「Windows 95 CD-ROM セットアップ起動ディスク」の CONFIG.SYS ファイルや AUTOEXEC. BAT ファイルを書き換える必要があります。
詳しくは、CD-ROM ドライブに付属の説明書をご覧ください。
PC カードドライバー（カードサービス／ソケットサービス）は、「Windows95 CD-ROM セットアップ起動ディスク」の「PCCARD」フォルダーに入っています。
再インストール目的に限って、ご使用ください。

使用方法：
次の２行を CONFIG.SYS ファイルに記述します。「Windows95 CD-ROM セットアップ起動ディスク」の CONFIG.SYS ファイルを参考にしてください。

```
DEVICE = A : \PCCARD \IBMDSS01.SYS
DEVICE = A : \PCCARD \IBMD0SCS.SYS
```

フロッピーディスクの使い方

フロッピーディスクを使用するときは、付属の外付けフロッピーディスクドライブ(品番： AL-NFFE020J）を取り付けてください。ここでは、外付けフロッピーディスクドライブの取り付け方と取り外し方について説明します。また、フロッピーディスクの取り扱い方についても説明します。

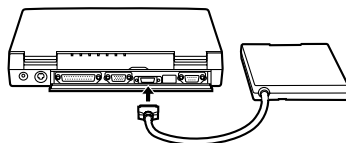
外付けフロッピーディスクドライブの取り付け方

1. 本体の電源を切る。

❶動作中のアプリケーションを終了します。
❷電源を切ります。電源が切れたのを確認して、AC アダプターを取り外します。

2. 外付けフロッピーディスクドライブを接続する。

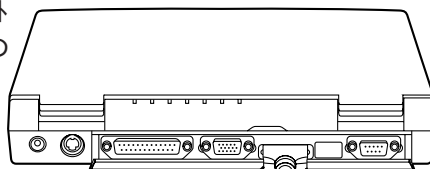
本体背面の外付けフロッピーディスクドライブコネクターに外付けフロッピーディスクドライブのコネクターを接続します。

コネクターの向きに注意して、接続してください。

外付けフロッピーディスクドライブの取り外し方

1. 本体の電源を切る。

❶動作中のアプリケーションを終了します。
❷電源を切ります。電源が切れたのを確認して、AC アダプターを取り外します。

2. 外付けフロッピーディスクドライブを取り外す。

ロック解除レバーを押しながら、外付けフロッピーディスクドライブのコネクターを引き抜きます。

お願い

フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、中のフロッピーディスクは取り出してください。(P.25)

フロッピーディスクの取り扱い方

◆各部の名称と働き

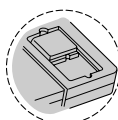
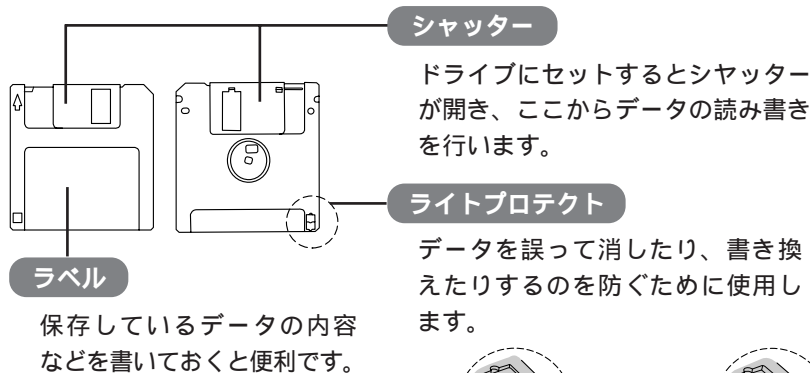
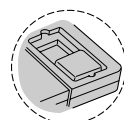
シャッター

ドライブにセットするとシャッターが開き、ここからデータの読み書きを行います。

ライトプロテクト

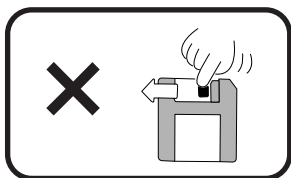
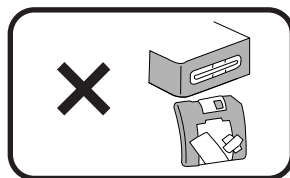
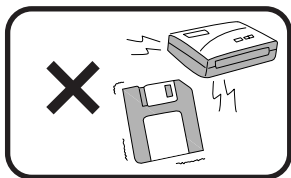
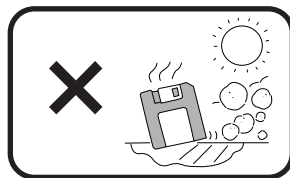
データを誤って消したり、書き換えたりするのを防ぐために使用します。

ラベル

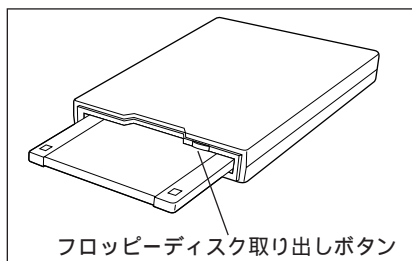
保存しているデータの内容などを書いておくと便利です。

書き込み可能な状態

書き込み禁止の状態

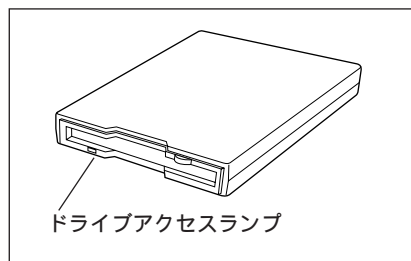
◆取り扱い上のお願い

下記のような取り扱いをすると、記録したデータが壊れたり、フロッピーディスクが取り出せなくなることがあります。

こんなことはしないでください

シャッターを手で開ける。

ラベルを重ねてはる。

磁気ネックレスやヘッドホンステレオなど、磁気を帯びたものを近づける。

高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管する。

◆フロッピーディスクのセット／取り出し

セットする

フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入します。

取り出す

ドライブアクセスランプが点灯していないことを確認した後、フロッピーディスク取り出しボタンを押して取り出します。

お願い

ドライブアクセスランプの点灯中はフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。

参考

●「読み出し」・「書き込み」とは

フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」、メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。

●フォーマット

新しいディスクは、磁気的に区画整理する必要があります。この作業を「フォーマット」（初期化）といいます。

1.2 Mバイトのフロッピーディスクをフォーマットすることはできません。

●使用できるフロッピーディスクの種類と記憶容量

フロッピーディスクには「2HD」と「2DD」の2種類があります。それぞれの記憶容量は次のとおりです。

2HD ── 1.44 Mバイト／1.2 Mバイト
2DD ── 720 Kバイト

1.2 Mバイトのフロッピーディスクを読み書きするには、設定の変更をする必要があります。詳しくは、本書、解説編・環境の設定・各種設定を行うをご覧ください。

●バックアップ

ハードディスクに蓄えられたデータは、操作の誤りなどで壊されることがあります。そのような場合に備えて、データのバックアップ（ファイルの複製）をしておいてください。

バッテリーパックの使い方

AC アダプターを接続しない場合、本体の電源になるのがバッテリーパックです。本体にはバッテリーパックを 2 本内蔵できます。室外で、または、持ち運んで使用するときに便利です。お買い上げ時には、バッテリーパックは装着されていません。28 ページで説明している手順に従って取り付けてください。
また、長期間本体を使わないときは、バッテリーパックを取り外しておくことをお勧めします。

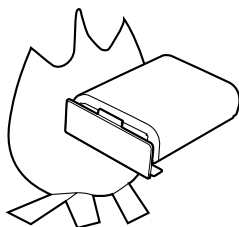
◆バッテリー容量を正確に表示させるために

- ●お買い上げ時のバッテリーパックは充電されておりません。
  はじめてお使いになる場合は下記 ① ～ ④ の操作を行い、必ず充電してからお使いください。
- ●バッテリー容量を正確に表示させるために、下記 ① ～ ④ の操作を行ってください。
  ①BATT インジケータが緑色に点灯するまで充電を行ってください。
  ②AC アダプターのプラグをはずし、バッテリーのみを使ってパソコンをお使いください。
  このとき、途中で AC アダプターを接続したり、パソコンの電源を切ったりしないでください。
  ③そのままお使いいただくと、パソコンは自動的にサスペンド／ハイバーネーション状態に入ります。
  ④サスペンド／ハイバーネーションしましたら、AC アダプターを接続し BATT インジケータが緑色に点灯するまで充電を行ってください。

お願い

サスペンド中に AC アダプターとバッテリーパックの両方ともを抜くと、データが失われますのでご注意ください。(P.49)

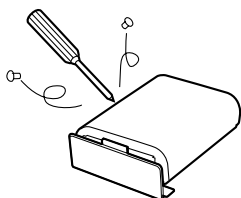
バッテリーパックに関する注意 ⚠ **危険**

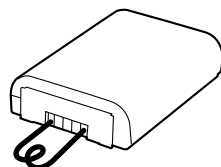
火の中に投入したり加熱したりしない

禁止
発熱・発火・破裂の原因になります。

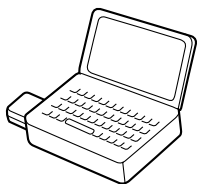
ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

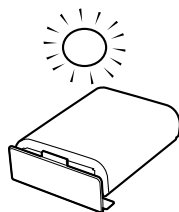
禁止
発熱・発火・破裂の原因になります。

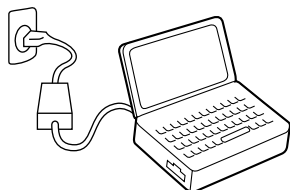
⚠ 危険

くぎで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしたりしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

プラス（＋）とマイナス（－）を金属などで接触させない

発熱・発火・破裂の原因になります。

付属の充電式電池は、必ず本機で使用する

本機専用の充電式電池です。本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電・使用・放置をしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

指定された方法で充電する

取扱説明書に記載された方法で充電しないと発熱・発火・破裂の原因になります。

お願い

バッテリーパックは一般のごみと一緒に廃棄しないでください。
端子をテープなどで絶縁してから、地方自治体の条例などに従い廃棄してください。

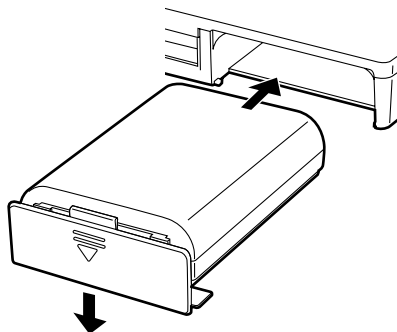
取り付け方

本機を縦にした状態で、挿入しないでください。

1. バッテリーパックを挿入する。

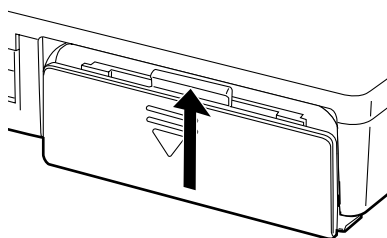
バッテリーのフタを矢印の方向へ移動させます。
バッテリーパックを挿入します。

お願い

力任せに押し込まないでください。

2. バッテリーフタを閉める。

バッテリーのフタを矢印の方向へ移動させます。

お願い

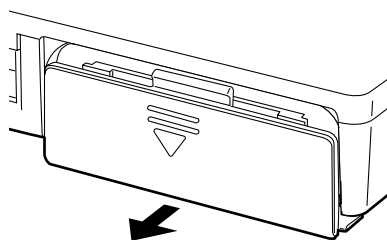
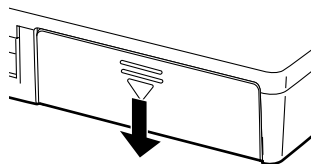
バッテリーのフタがロックされたことを確認してください。

取り外し方

1. 本体の電源を切る。

2. バッテリーのフタを開ける。

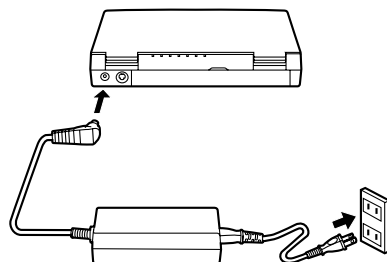
バッテリーのフタを矢印の方向へ下げ移動させます。

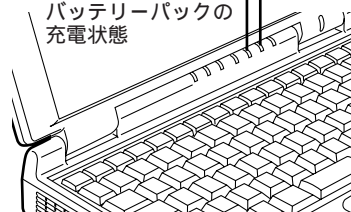
3. バッテリーパックを引き出す。

バッテリーパックを取り出します。

充電のしかた

付属のバッテリーパックは、お買い上げ時には充電されていません。はじめて使用するときは、必ず充電してください。
充電は、コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態で行います。

1. **AC アダプターを接続する。**

充電が始まります。充電中は、BATT インジケーターがオレンジ色に点灯します。(P.38)

2. **充電状態を確認する。**

充電が終わると、BATT インジケーターが緑色に点灯します。(P.38)
バッテリーパックの状態により、同時に終了しないことがありますが、故障ではありません。

◆**充電時間**（使用条件により異なります。）

電源が入っているとき　約 10 時間（バッテリーパックを 2 つ装着時）
電源が切れているとき　約　3 時間（バッテリーパックを 2 つ装着時）

参考

電源が切れている状態でも、約 60　mW の電力を消費します。従って、AC アダプターを使用していないときバッテリーパック 2 本を満充電にしていても約 14 日間で放電してしまいます。再度、充電してからお使いください。

バッテリーの消耗

バッテリーが消耗すると、両方（1 本だけ使用している場合は片方）の BATT インジケーターが赤く点灯し、ピーピーと音が鳴ります。その場合は、すぐに AC アダプターを接続してください。
すぐに AC アダプターを接続できないときは、動作中のプログラムを終了させて電源を切ってください。その後、AC アダプターを接続して、充電してからお使いください。

カードのセット

使用できるカードは、RAM モジュールと PC（PCMCIA）カードの２種類です。それぞれ専用のスロットにセットします。

RAM モジュール

RAM モジュールを増設すると、メモリーを拡張することができます。(P.90)
64M バイト（品番：AL-NFMC640J）と 32M バイト（品番：AL-NFMC320J）の２種類の RAM モジュールを増設することができます。

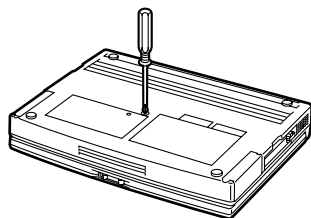
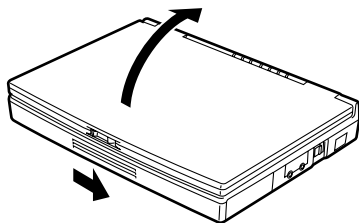
◆セット／取り出しを行う前に

1. データを保存し Windows を終了させる。
2. 電源が切れたことを確認して、AC アダプターを取り外す。
3. (RAM モジュールのセット／取り出しを行うときのみ)
   バッテリーパックを取り外す。(P.28)

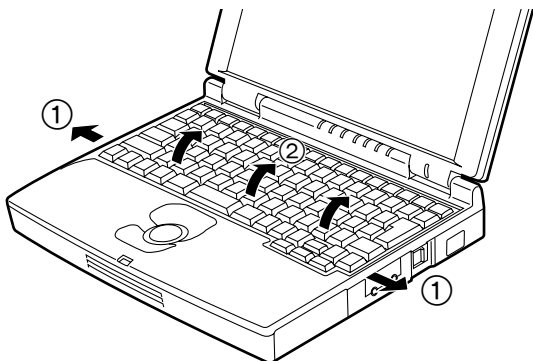
1. 本体裏面のネジを取り外す。

小型のプラスドライバーで本体裏面のキーボード固定ネジを１か所取り外す。

お願い

本体裏面には、多数のネジがありますので、ネジの位置に注意してください。

2. ディスプレイを開ける。

3. キーボードパネルを開ける。

①ラッチが左右 2 か所にあります。キーボード左右のキャビネットを矢印の方向に押し開いて、ラッチの押えを外しながら、

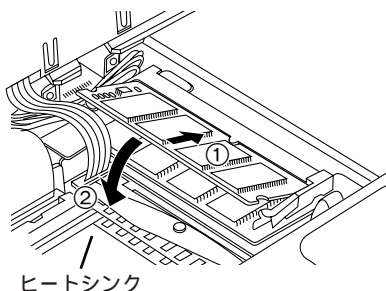
②マイナスドライバーか 0.5 ㎜厚程度のスケールをキーボードパネルの前のミゾに差し込んで開けてください。

お願い

- キーボードパネルを開けるときは、キートップを持たないでください。キートップが壊れる場合があります。
- キーボードパネルを、ディスプレイ側に無理に押し倒さないでください。パネルの支軸が破損する恐れがあります。

4. RAM モジュールをセットする／取り出す。

セットする

①ソケットのミゾに合わせて、斜め上方からしっかり差し込みます。

②矢印の方向に軽く押して、はめ込みます。フックがかかり、ロックされていることを確認してください。

お願い

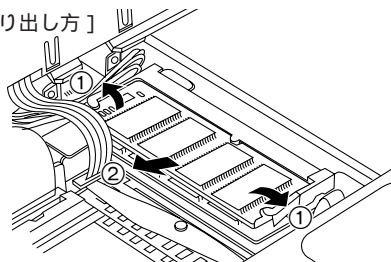
- 向きと角度に注意して差し込んでください。向きやミゾとの角度を間違うとうまく入りません。
- ヒートシンクとファン、および RAM モジュールソケットのフックは、高温になっています。電源を切ってから、1 時間以上経過後に取り付けを行ってください。

取り出す

①両側のフックを開いて、ロックを外します。

②矢印の方向に、引き抜きます。

[取り出し方]

①
②
①

5. キーボードパネルを閉じる。

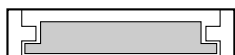
2 か所のラッチがかかるように、しっかりと閉じてください。

6. 本体裏面のネジを締める。

ディスプレイを閉じて本体を裏返し、小型のプラスドライバーでキーボード固定ネジを締めます。

PC（PCMCIA）カード

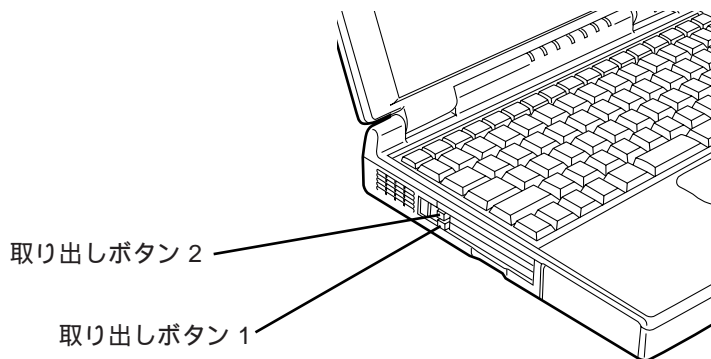
PC（PCMCIA）カードとは、JEIDA 規格に準拠したカードのことをいいます。モデムカード、IC メモリーカード、LAN カード、サウンドカードおよび 1.8 インチ HDD などがあります。

タイプⅠとタイプⅡ（厚さが 5 mm を越えないもの）は、上段スロット／下段スロットのどちらでもセットすることができます。また、2 段両方にセットすることもできます。

タイプⅢ（1.8 インチ HDD など）と ZV カードは、下段スロットにセットしてください。

お願い

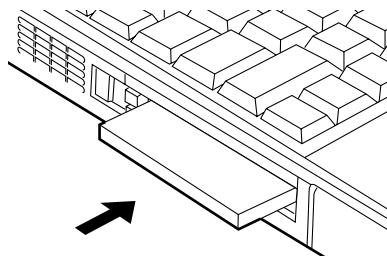
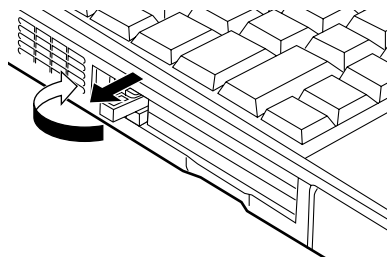
ご使用の前に、必ず、PC カードの消費電流を確認してください。PC カードスロットの許容電流を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。
許容電流については、「本体仕様」（P.100）を参照してください。

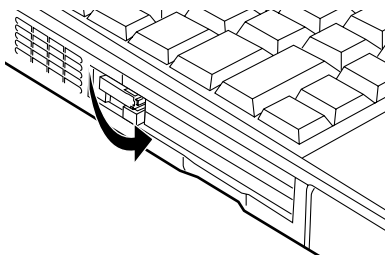
◆セットのしかた／取り出し方

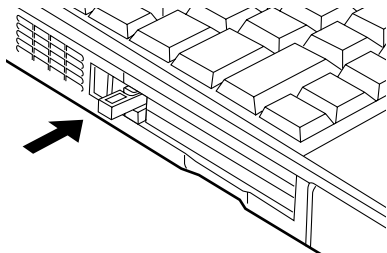
下段のカードのセット／取り出しには、取り出しボタン 1 を、
上段のカードのセット／取り出しには、取り出しボタン 2 を使います。

以降に、セットのしかたと取り出し方について説明します。

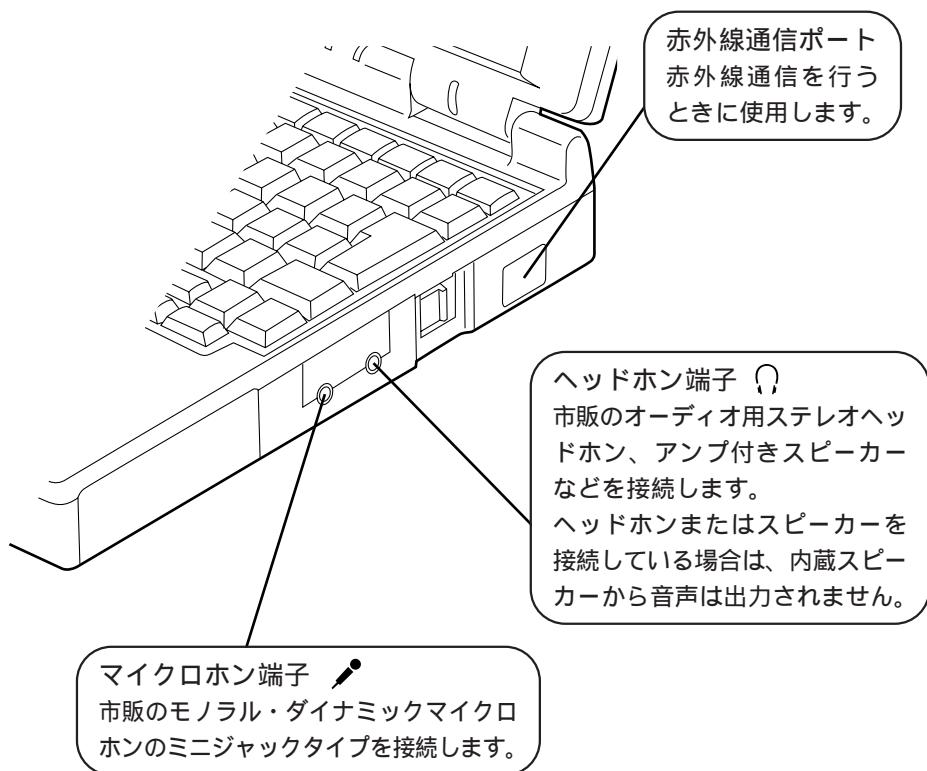
1. カードをセットする。

①カードを PC カードスロットにしっかりと差し込む。

取り出しボタンが飛び出ます。

②取り出しボタンを完全に引き出してから、折り曲げる。

2. カードを取り出す。

①取り出しボタンの折れ曲がり部分を伸ばす。

② 取り出しボタンを押す。

カードが少し出てきますので、取り出してください。

周辺機器の接続

接続および取り外しの前に、必ず本体と機器の電源を切ってください。接続後は、しっかりと接続されていることを確認してください。

お願い

●各コネクターへプラグが接続されている状態のときは、ディスプレイを後ろまでいっぱいに開かないでください。ディスプレイ背面とプラグが接触して、損傷の原因となります。
●後面のカバーは開き過ぎないように（水平位置以上は開けないように）してください。取り付け部が破損するおそれがあります。
●モノラル・ダイナミックマイクロホン以外のマイクロホンをご使用になると、音が入力できなかったり、故障の原因になる場合があります。

バッテリーの上手な使い方

バッテリーの種類

●バッテリーパック
　本体内蔵用の充電式のバッテリーパックです。本体には、2 本内蔵できます。
　AC アダプターを使わないときは、このバッテリーから電源が供給されます。

●クロックバッテリー
　時計を動かし、初期環境などの設定内容を保持するためのバッテリーで、本体に内蔵されています。

使用温度についてのお知らせ

●本体は、使用環境温度５～35 ℃の範囲で操作してください。
　使用環境温度が低い場合、バッテリーの稼動時間が短くなります。

●高温、または低温の状態で充電すると、バッテリーの充電容量が低下します。

●通常の放電時にあたたかくなることがありますが、異常ではありません。

●使用環境温度範囲外で充電しようとした場合は、BATT インジケーターがオレンジ色に点滅して、範囲外であることを知らせます。
　このようなときは、温度を範囲内に戻してから、再度、充電を始めてください。

充電についてのお願い

●出荷時には、バッテリーパックは充電されていません。ご使用前に、必ず充電してください。ＡＣアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。

●充電中に、AC アダプターを抜くことは避けてください。充電が完了してから抜くようにしてください。

●他のコンピューター内や他の充電器では充電しないでください。

●充電中、BATT インジケーターが赤色に点滅した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。このような場合は、いったん、AC アダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、「販売店」にご相談ください。

●バッテリーパックを長期間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。
　この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。

●バッテリーパックの着脱を何度も繰り返し、その度に充電を行うと、過充電となり熱を発生します。バッテリーパックの劣化の原因となりますのでやめてください。

●バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの稼動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。

バッテリーの自然放電について

バッテリーは充電終了後、自然放電により表示残量が減少することがあります。このときの表示残量が98％以上の場合ACアダプターの抜き差しによる再充電はバッテリー保護機能が働き行われません。
ACアダプターを取り付けた後、バッテリーをいったん抜き、再度装着することにより充電を開始します。

取扱上のお願い

「安全上のご注意」(P. 26～27）に記載の注意事項をよく読み、取り扱ってください。
加えて、以下の点にもご注意ください。

●交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお勧めします。
●水や海水などをかけないでください。端子がさびる原因となります。
●端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。端子が汚れたときは、乾いた布、綿棒などでふいてください。
●万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服に付いた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

放電制御の種類

●バッテリー放電制御において、二つのモードが選択できます。本体のバッテリー稼動時間を長くするためにA/B同時放電（バッテリー放電制御）と省電力（CPUスピード）（P. 53）を選択されることをお勧めします。放電方式の特徴と用途は下記のようになっています。

バッテリー放電制御	特徴と用途
A/B同時放電	A（左側）とB（右側）バッテリーを同時に使って動作します。B→Aの順に放電よりバッテリーに対する負荷が小さいので、同じ2本のバッテリーを使用して本体を動作させる場合は、この方式の方がバッテリー動作時間が若干長くなります。
B→Aの順に放電	2本のバッテリーの内、Bバッテリーを使って動作します。Bバッテリーが消耗した後Aバッテリーへ自動的に切替わり、本体は動作しつづけます。この設定の場合には、本体の電源を切らずに交換用のバッテリーを交換することができます。

●工場出荷状態は、A/B同時放電に設定されています。

バッテリー残量の確認

バッテリーの残量を確認する方法は、次のとおりです。

・ PopUp アイコン及び BATT インジケーターで確認する

◆ BATT インジケーターで確認する

本体には、2 本のバッテリーが内蔵されています。
本体にむかって、左側を A バッテリー、右側を B バッテリーと呼びます。

BATT インジケーターの状態	充電状態
オレンジ色に点灯	**充電中**
緑色に点灯	**充電完了**
赤色に点灯	**バッテリー残量なし** 充電が必要です。同時にアラームが鳴ります。 早急に AC アダプターを接続してください。 AC アダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windows も終了して POWER インジケーターが消えることを確認してください。（使用条件により異なります。）
オレンジ色に点滅	充電できない バッテリーパックの温度が使用環境温度の範囲外にあるため、充電できません。充電可能な温度に戻してから、再度、充電を始めてください。
赤色に点滅	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。AC アダプターとバッテリーパックを取り外して再度正しく装着し直してください。それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または、「ご相談窓口」にご相談ください。

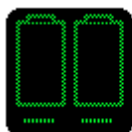
◆バッテリー残量の少ない場合

- バッテリー残量が少なくなると（2 本時残量がそれぞれ 15 %以下）CPU スピードは、設定にかかわらず「省電力」になります。
- バッテリー残量が少なくなった時の動作を「自動的にサスペンドモードにする」に設定した場合バッテリー残量がなくなるとサスペンド状態になります。この状態の時は、AC アダプターを接続してリジュームさせてください。
- バッテリー残量が少なくなった時の動作を「自動的にハイバーネーションモードにする」に設定した場合バッテリー残量がなくなるとハイバーネーション状態になります。この状態の時は AC アダプターを接続してリジュームさせてください。

◆ PopUp アイコンで確認する

［Fn］キーを押しながら［F9］キーを押して手を離すと、しばらくの間下図のように画面にバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。

バッテリー残量表示

バッテリー残量表示（バッテリーが入っていないとき）

キーボードの操作

キーコンビネーション

[Fn] キーを押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。この操作を「ホットキー」と呼びます。

[F2]　LCD バックライトの輝度を切り替えます。キーを押すごとに（低輝度→通常→高輝度）の順に輝度が切り替わります。

[F3]　画面表示の表示先を切り替えます。キーを押すごとに（外部モニター→内部 LCD →同時表示→外部モニター）の順に表示先が切り替わります。
・外部モニターが接続されていない場合は、切り替わりません。

[F4]　内蔵スピーカーボリュームを下げます。

[F5]　内蔵スピーカーボリュームを上げます。音量は、下図のように画面にアイコン表示されます。なお、スピーカーオフアイコンが表示されたときは、スピーカーオフを解除してから音量を変更するようにしてください。

音量小

音量大

[F6] 省電力設定モードを切り替えます。キーを押すごとに（標準モード→省電力モード→ユーザー設定モード→標準モード）の順に省電力設定モードを切り替えます。状態は、下図のように画面にアイコン表示されます。

標準モード　省電力モード　ユーザー設定モード

[F7] ハイバーネーション機能＊[1]を働かせ、本機をハイバーネーションモードにします。

[F8] 内蔵スピーカーから出る音を消します。再度押すと元に戻ります。
状態は下図のように画面にアイコン表示されます。

スピーカーオフ　スピーカーオン

[F9] バッテリーの充電状況が、画面にアイコン表示されます。詳しくは「バッテリー残量の確認」（P.38）を参照してください。

[F10] 省電力のため、ハードディスクドライブモーター、LCD、バックライトの電源を切ります。任意のキーを押すと、LCDとバックライトの電源が入ります。ハードディスクへのアクセスがあれば、ハードディスクドライブモーターの電源が入ります。

Powerスイッチ サスペンド／リジューム機能＊[2]またはハイバーネーション機能が有効であっても、サスペンドやハイバーネーションせずに電源を切ります。使用中のデータを保存し、Windowsを終了した状態で使ってください。

＊1 ハイバーネーション機能
ハードディスクに電源を切る前の状態が保存され、次回電源を入れたときに、すぐに切る前の状態に戻ることができる便利な機能です。

＊2 サスペンド／リジューム機能
ハイバーネーション機能とほぼ同じ役割をします。ただし、ハイバーネーション機能では、電源を切る前の動作状態をハードディスクに保存しますが、サスペンド／リジューム機能ではメモリーに保存するだけです。したがって、ACアダプターもしくはバッテリーパックのどちらかが装着されていないと、この機能は働きません。
詳しくは、「省電力設定」（P.49）を参照してください。

お願い

・システム起動中、あるいはサスペンド／リジュームやハイバーネーション処理を実行中は一部のホットキーは使用できません。
・高速なシリアル通信中などにホットキーを使用すると、通信エラーになることがあります。通信中はホットキーを使用しないでください。
・音声再生、録音中にホットキーを使用すると、音がみだれる事があります。

特殊キー

[Esc] アプリケーションソフトによって機能が異なります。

[ScrLK] アプリケーションソフトによって機能が異なります。

[NumLK] [Shift] キーを押しながら押して、テンキーを有効にするかどうかを切り替えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。
NumLK インジケーター点灯時：テンキー有効
この状態で［Fn］キーを押しながら入力すると、テンキーが無効になります。
NumLK インジケーター消灯時：テンキー無効
この状態で［Fn］キーを押しながら入力すると、カーソルや画面の移動キーとして使用できます。

[Pause/Break] プログラムの実行を中断します。続行する場合は、任意のキーを押してください。[Ctrl] キーを押しながら押した場合は、プログラムの実行を中止します。

[CapsLock/英数] 英数字入力になります。[Shift] キーを押しながら押した場合は、CapsLock 状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。
CapsLock 状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、[Shift] キーを押しながらアルファベットキーを押すと、小文字入力になります。

[Enter] コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。

[Shift] 通常、このキーとともにアルファベットキーが押されると、大文字入力になります。また、このキーとともに数字キーか特殊キーが押されると、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。

[Ctrl] 他のキーと同時に押した場合は、特殊機能が有効になります。他の特殊キーと同時に押した場合は、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

[Alt] 他のキーと同時に押した場合は、特殊機能が有効になります。他の特殊キーと同時に押した場合は、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

環境の設定

動作環境を設定する

本機には２種類の動作環境設定ユーティリティが搭載されており、それぞれ以下の特徴があります。

＜セットアップユーティリティ＞

本機に搭載するすべての設定項目を変更することができます。
設定を行うにはWindows 95を終了する必要があります。
（以下本文ではROM SETUPと呼びます）

＜パワーマネージメント設定＞

本機に搭載する機能のうち、省電力関係の設定を変更することができます。
Windows 95上で設定を行うことができ、Windows 95を再起動することなく設定を反映することができます。
（以下本文ではWIN SETUPと呼びます）

◆設定内容

本機では以下の設定ができます。

＜システム設定＞

ROM SETUPで設定します。
起動時のテンキー設定、トラックボールの有効・無効化、BIOS確認音、本機起動時の起動ドライブなどを設定します。

＜システム詳細設定＞

ROM SETUPで設定します。
PCカード、パラレルポート、赤外線ポート、シリアルポート、サウンドポートの設定を行います。

＜ビデオ設定＞

ROM SETUPで設定します。
外部モニターと内部ＬＣＤとの画面表示の切替、グラフィックやテキストの拡張表示の有効・無効化などを設定します。

＜セキュリティー設定＞

ROM SETUPで設定します。
データ等を保護するためのパスワード機能を設定します。

＜省電力設定＞

ROM SETUPおよびWIN SETUPにて設定します。
消費電力を抑えるための各種設定を行います。

◆セットアッププログラムを起動する

＜ROM SETUP＞

Windows 95を終了し、再度電源を入れます。「Press F1 for Setup」が表示されているときに［F1］キーを押します。

- ［F1］キーを押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。そのときはWindows 95を終了し、再度行ってください。
- パスワードを設定している時は、F1キーを押した後、パスワード入力が要求されます。この時は、パスワードを入力してROM SETUPを起動してください。
- ROM SETUPの操作方法は、起動後画面下部に表示されます。

＜WIN SETUP＞

Windows 95の［スタート］メニューから［プログラム］→［Panasonic］→［パワーマネージメント設定］を選択し起動します。

◆システム設定

システム設定はROM SETUPで設定します。

ROM SETUPを起動すると以下の画面が表示されます。

システム設定を選択すると以下の画面が表示されます。

＜NumLK＞

起動時にテンキー（青色で印刷された数字等）による入力を有効にするかどうかを設定します。「オン」「オフ」から選択します。「オン」を選択すると、テンキーを使っての数値入力ができる状態で起動します。デフォルト設定は「オフ」です。

＜トラックボール＞

トラックボールを使用するかどうかを設定します。「有効」「無効」から選択します。「無効」を選択するとトラックボールは動作しなくなります。外部マウスが正常に動作しない場合は、トラックボールを「無効」に設定してみてください。デフォルト設定は「有効」です。

＜BIOS 確認音＞

システム起動時、サスペンド時、ハイバーネーション時の BIOS 確認音（ピッという音）を設定します。「有効」「無効」から選択します。デフォルト設定は「有効」です。

＜起動ドライブ＞

システムを起動するドライブを設定します。［HDD → FDD］［FDD → HDD］から選択します。デフォルト設定は「FDD → HDD」です。

◆システム詳細設定

システム詳細設定を選択すると以下の画面が表示されます。

<デバイス制御モード>

デバイスの制御モードをシステム詳細設定で設定したI/Oポートを使用するか、またはプラグ＆プレイ インターフェースを使用するかを設定します。「手動設定」「プラグ＆プレイ」から選択します。
プラグ＆プレイをサポートしていないオペレーティングシステムを使用する場合は、必ず「手動設定」を選択してください。
「プラグ＆プレイ」を選択した場合でも、「PCカード動作モード」、「パラレルポート：モード」、「赤外線ポート：モード」、「サウンドポート有効・無効」は設定した内容が使用されます。デフォルト設定は「手動設定」です。

<PC Card動作モード>

PC Cardコントローラの動作モードを設定します。CardBusモードで動作するカードを使用する場合のみ「CardBusモード」に設定してください。デフォルト設定は「PCIC互換モード」です。

<パラレルポート>

パラレルポートのアドレスを設定します。「278, IRQ5」「3BC, IRQ7」「378, IRQ7」「無効」から選択します。サウンドポートのIRQと重なった場合、自動的にサウンドポートIRQが別のIRQに変更されます。デフォルト設定は「378, IRQ7」です。

<パラレルポート動作モード>

パラレルポートの動作モードを設定します。「単方向」「双方向」「EPP」「ECP」から選択します。「EPP」及び「ECP」モードは、パラレルポート設定が「278」、「378」のときのみ選択可能です。デフォルト設定は「双方向」です。

<パラレルポートDMA>

パラレルポート動作モードをECPに設定したときに使用するDAMチャネルを設定します。「DMA 0」「DMA 1」から選択します。サウンドポートDMA-A、サウンドポートDMA-Bと重ならないように設定してください。デフォルト設定は「DMA 0」です。

＜赤外線ポート＞

赤外線ポートのアドレスを設定します。「3F8、IRQ4」「2F8、IRQ3」「無効」から選択します。シリアルポートのアドレスと重なった場合自動的にシリアルポートのアドレスが別のアドレスに変更されます。デフォルト設定は「2F8、IRQ3」です。

＜赤外線ポート動作モード＞

赤外線ポートの動作モードを設定します。「IrDA」「ASK」から選択します。
Windows 95の赤外線を使用する場合は、「IrDA」を設定してください。デフォルト設定は「IrDA」です。

＜シリアルポート＞

シリアルポートのアドレスを設定します。「3F8、IRQ4」「2F8、IRQ3」「無効」から選択します。赤外線ポートのアドレスと重なった場合、自動的に赤外線ポートのアドレスが別のアドレスに変更されます。デフォルト設定は「3F8、IRQ4」です。

＜サウンドポート＞

サウンドチップ動作を設定します。「有効」「無効」から選択します。「無効」を選択するとサウンドに関する設定はすべて無効になります。デフォルト設定は「有効」です。

＜サウンドポート Sound Blaster 互換 I/O ＞

Sound Blaster互換モードのI/Oアドレスを設定します。「220」「240」「260」「280」から選択します。サウンドチップの項目が「無効」に設定されているとき、この項目は選択できません。デフォルト設定は「220」です。

＜サウンドポート WSS CODEC I/O ＞

WSS CODECのI/Oアドレスを設定します。「530」「640」「E80」「F40」から選択します。サウンドチップの項目が「無効」に設定されているとき、この項目は選択できません。デフォルト設定は「530」です。

＜サウンドポート IRQ ＞

サウンドチップのIRQを設定します。「IRQ5」「IRQ7」「IRQ11」から選択します。パラレルポートと同じIRQは、選択できません。デフォルト設定は「IRQ5」です。

＜サウンドポート DMA-A ＞

サウンドチップのDMAを設定します。「DMA 0」「DMA 1」「DMA 3」から選択します。パラレルポートDMA、サウンドポートDMA-Bと重ならないように設定してください。デフォルト設定は「DMA 3」です。

＜サウンドポート DMA-B （Sound Blaster）＞

サウンドチップのDMAを設定します。「DMA 0」「DMA 1」「DMA 3」から選択します。パラレルポートDMA、サウンドポートDMA-Aと重ならないように設定してください。デフォルト設定は「DMA 1」です。

◆ビデオ設定

ビデオ設定は ROM SETUP で設定します。

<ディスプレイ>

ディスプレイの初期状態を設定します。「内部 LCD」「外部ディスプレイ」「同時表示」から選択します。デフォルト設定は「外部ディスプレイ」です。

参考

外部モニターが接続されていない場合は、内部 LCD 表示で起動します。このとき、外部モニターに表示するには、外部モニターを接続の上、ホットキー（[Fn] キーを押しながら [F3] キーを押す）を押し、表示先を切り替えます。

<テキスト拡張表示>

英語 DOS モードなど、テキストモードの 640 × 480 サイズ以下の画面を LCD いっぱいに拡張して表示する機能です。「有効」「無効」から選択します。デフォルト設定は「無効」です。

<グラフィックス拡張表示>

日本語 DOS モードなど、グラフィックスモードで 640 × 480 サイズ以下の画面を LCD いっぱいに拡張して表示します。デフォルト設定は「無効」です。

◆セキュリティー設定

セキュリティー設定は ROM SETUP で設定します。

＜ユーザーパスワード＞

起動時のパスワードを設定します。「有効」に設定すると、起動時にパスワード入力が要求されます。そのときにパスワードの入力を間違えると起動しません。デフォルト設定を実行しても設定は変わりません。

パスワードを新規に設定する・変更する場合

1. 「ユーザーパスワード入力」欄に設定（変更）するパスワードを入力します。

2. 「ユーザーパスワード再入力」欄に再度、設定（変更）するパスワードを入力します。

お願い

コントロールキー、カーソルキー、特殊キー、ファンクションキー、タブキー、スペースキー、バックスペースキーは、パスワードとして使用できません。また、キーボード・コネクターに外部キーボードを接続しているときでも内部キーボードを使って入力してください。

3. 「ユーザーパスワード登録（変更)」欄を選択し［Enter］キーを押します。

パスワードを無効に設定する場合

1.「ユーザーパスワード削除」を選択する。

お願い

設定したパスワードは、手帳などにメモしておくことをお勧めします。
電源のON/OFFやリセットを行ったり、サスペンド／リジューム機能を使用した場合にパスワードの入力が必要になります。

◆省電力設定

<サスペンド／リジューム機能とは>

電源を切った後、再度電源を入れたときに、電源が切れる前の状態に戻すことができる便利な機能です。この機能により、中断した操作をすぐに再開することができます。ただし、バッテリーパックもしくはACアダプターのどちらかが装着されていないと、この機能は働きません。

<ハイバーネーション機能とは>

電源を切る前の状態がハードディスクに保存され、次回、電源を入れたときに、切る前の状態にすぐに戻ることができる機能です。
サスペンド／リジューム機能との違いは、メモリー上のデータが、いったんハードディスクに保存されることです。電源の供給がなくてもデータを保持することができるので、ハイバーネーション機能を有効にして電源スイッチを切った後、バッテリーパックとACアダプターの両方を取り外しても、次回、電源を入れたときには元の状態に戻ることができます。

サスペンド／リジューム機能やハイバーネーション機能を使うと、以下のようなことが行えます。
- アプリケーションプログラムを使っているとき、アプリケーションプログラムを終了しなくても、単に電源を切ったり入れたりするだけで作業を中断したり再開したりできます。
- ROM SETUPおよびWIN SETUPで「サスペンドタイムアウト」を設定していると、一定時間コンピューターを触らなかった場合に自動的に電源が切れて、電力の消費が抑えられます。再度電源を入れたときには、切る前の状態に戻ります。

お願い

- ●バッテリーパックのみでサスペンド／リジュームを行うと、本体の電源を入れても、電源が切れる前の状態に戻らないことがあります。ACアダプターをつなぐか、十分充電してから、電源を入れてください。
- ●サスペンド／リジューム処理中は、トラックボール、マウスを動かさないでください。動かすと、リジュームした後、トラックボールやマウスが動作しなくなります。
- ●フロッピーディスクドライブやハードディスクドライブの動作中は、絶対に、コンピューターの電源スイッチを押さないでください。

＜サスペンド／リジューム機能およびハイバーネーション機能使用上のお願い＞

●マウス、モデム、その他のシリアルデバイスは、サスペンド／リジューム後、システムに認識されないことがあります。そのようなときには、デバイスを初期化し直してください。

●PC カードなど周辺装置が本機に接続されている場合、サスペンド／リジューム機能およびハイバーネーション機能はこれらの周辺装置では使えません。
また、サスペンド中に PC カード電源を切らない設定にして PC カードをセットしたままサスペンド状態に入ると、サスペンド中の消費電力が増えることがあります。

●サスペンド／リジューム機能およびハイバーネーション機能は、以下のアプリケーションプログラム動作中には使用できないことがあります。
Windows 95 や MS-DOS 以外の OS
DIAG（自己診断）プログラム

●通信ソフト動作中やネットワーク使用中はサスペンド／リジューム機能およびハイバーネーション機能は使用しないでください。エラーが発生します。

●オーディオの録音または再生中は、サスペンド状態およびハイバーネーション状態にしないでください。実行ファイルとデータが壊れる可能性があります。

＜サスペンド／リジューム機能使用上のお願い＞

●リセットスイッチを押すと、サスペンド／リジューム機能によって保存されていたデータは失われます。

＜ハイバーネーション機能使用上のお願い＞

●ハイバーネーション機能を使用するには、内蔵ハードディスク上に、メモリーデータ書き出し用として一定の領域が必要です。領域は、出荷時に確保してありますが、メモリーを増設したときや、HDD をフォーマットしたときには、領域を確保し直す必要があります。詳しくは、本書、解説編・環境の設定・各種設定を行う中の「ハイバーネーション用データエリアについて」をご覧ください。

参考

サスペンド／リジューム機能を有効に設定している場合に、電源を切ったときの状態を「サスペンド状態」、次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを「リジュームする」と言います。

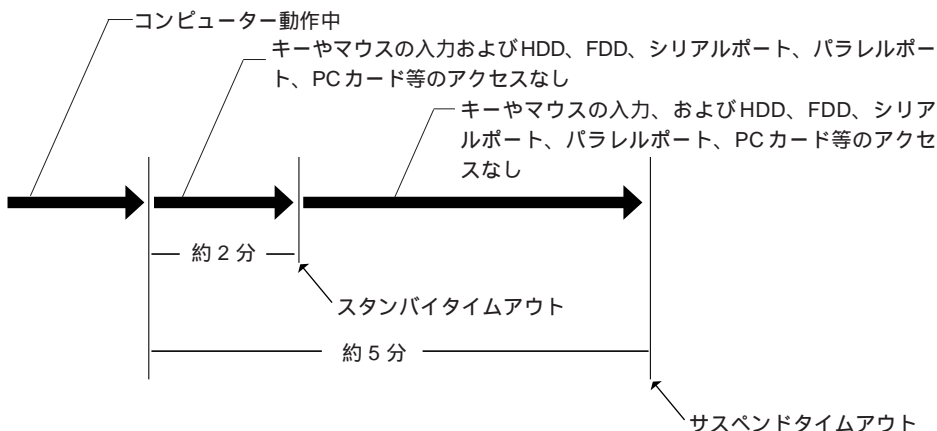
<サスペンドタイムアウト機能とは>

一定時間、キーやトラックボール、マウスの入力および HDD、FDD、シリアルポート、パラレルポート、PC カード等のアクセスがないと、自動的に電源を切る機能です。

動作がサスペンドタイムアウト機能によって中断された場合、再度電源スイッチを入れると、元の画面が復元されます。

<スタンバイ機能とは>

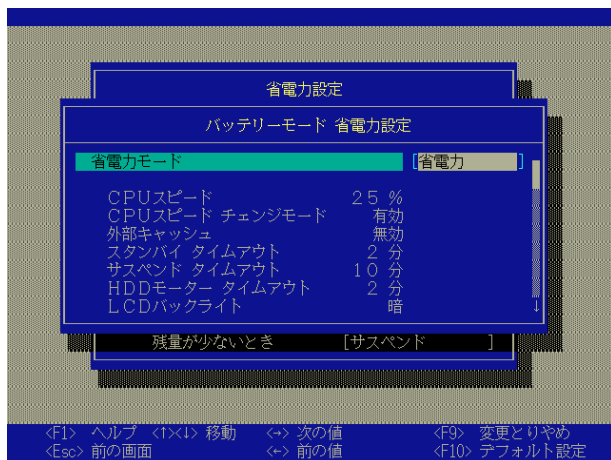
一定時間、キーやトラックボールの入力および HDD、FDD、シリアルポート、パラレルポート、PC カード等のアクセスがないと、ハードディスクドライブモーターを止めて、LCD、バックライトを消します。スタンバイタイムアウトとサスペンドタイムアウトの両方が設定されている場合は、スタンバイ状態に入った後、サスペンド状態またはハイバーネーション状態になります。
スタンバイ機能を設定するには、ROM SETUP または、WIN SETUP を起動し、「省電力」設定の項目で「スタンバイタイムアウト」の項目を設定します。

例）　スタンバイタイムアウト：約 2 分
　　　サスペンドタイムアウト：約 5 分

［Fn］キーを押しながら［F10］キーを押すと、コンピューターがスタンバイ状態になります。キーボード（［Fn］キーを除く）、トラックボール／マウスポートの入力があった場合には、再び LCD とバックライトの電源が入ります。

省電力設定は ROM SETUP, WIN SETUP のどちらでも設定できます。

ROM SETUP で設定する場合

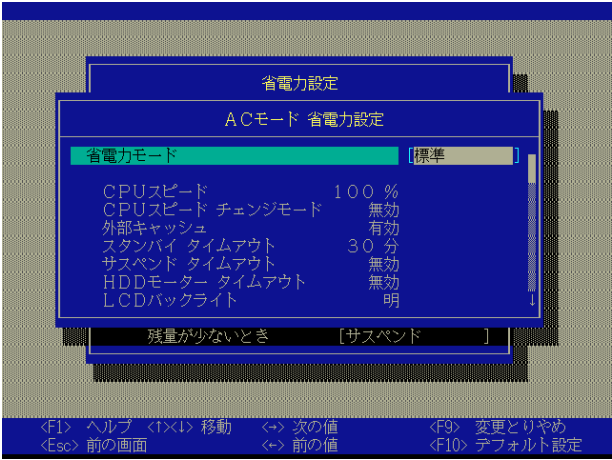
<バッテリーモード省電力設定>

バッテリーモード省電力設定を選択すると以下の画面が表示されます。

省電力モード
起動時の、バッテリーで使用するときの省電力モードを設定します。
「標準」「省電力」「ユーザー設定」より選択します。下表の通り、「標準」を選択すると処理速度重視の設定に、「省電力」を選択すると消費電力重視の設定になります。「ユーザー設定」を選択すると、各項目を下表の選択肢から設定できます。これらの設定は、ホットキー（[Fn］キーを押しながら［F6］キーを押す）で一時的に変更することができますが、起動時にはここで設定した内容で動作します。デフォルト設定は「省電力」です。

	標準	省電力	ユーザー設定
CPU スピード	100％	25％	100％, 75％, 50％, 25％, 12.5％
CPU スピードチェンジモード	無効	有効	有効、無効
外部キャッシュ	有効	無効	有効、無効
スタンバイタイムアウト	30分	2分	1分, 2分, 5分, 10分, 15分, 30分, 無効
サスペンドタイムアウト	無効	10分	1分, 2分, 5分, 10分, 15分, 30分, 無効
HDD モータータイムアウト	無効	2分	1分, 2分, 5分, 10分, 15分, 30分, 無効
LCD バックライト	明	暗	明, 中, 暗

CPU スピード
　バッテリーで使用するときの CPU の動作速度を設定します。
CPU スピードチェンジモード
　一定時間キーボード、マウス、トラックボールの入力や、HDD、FDD、シリアルポート、パラレルポート、PC カード等のアクセスがなければ、CPU がストップする機能です。入力やアクセスが発生すると、CPU は元のスピードに戻ります。Windows を使用しているときは、より効率的な節電方法が行われるため、この設定は無視されます。
外部キャッシュ
　CPU 外部に接続するキャッシュの動作を設定します。無効に設定すると外部キャッシュの動作を停止し、電力の消費を抑えます。
スタンバイタイムアウト
　設定した時間 キーボード、マウス、トラックボールの入力や、HDD、FDD、シリアルポート、パラレルポート、PC カード等のアクセスがなければ、ディスプレイがオフになり、システムはスタンバイモードになる機能です。入力やアクセスが発生すると、ディスプレイの表示が元に戻ります。
サスペンドタイムアウト
　設定した時間キーボード、マウス、トラックボールの入力や、HDD、FDD、シリアルポート、パラレルポートのアクセスがなければ、システムがサスペンドする機能です。パワースイッチの動作を「ハイバーネーションする」に設定していると、ハイバーネーションします。
HDD モータータイムアウト
　設定した時間、HDD にアクセスがなければ、HDD モーターが停止する機能です。アクセスが発生すると HDD は元の状態に戻ります。
LCD バックライト
　バッテリーで使用するときの LCD バックライトの輝度を設定します。暗くするほど消費電力は小さくなります。

＜ＡＣモード省電力設定＞

ＡＣモード省電力設定を選択すると以下の画面が表示されます。

省電力モード

起動時の、ACアダプターを接続して使用するときの省電力モードを設定します。「標準」「省電力」「ユーザー設定」より選択します。下表の通り、「標準」を選択すると処理速度重視の設定に、「省電力」を選択すると消費電力重視の設定になります。「ユーザー設定」を選択すると、各項目を下表の選択肢から設定できます。これらの設定は、ホットキー（[Fn］キーを押しながら［F6］キーを押す）で一時的に変更することができますが、起動時にはここで設定した内容で動作します。デフォルト設定は「標準」です。

	標準	省電力	ユーザー設定
CPUスピード	100％	25％	100％, 75％, 50％, 25％, 12.5％
CPUスピードチェンジモード	無効	有効	有効、無効
外部キャッシュ	有効	無効	有効、無効
スタンバイタイムアウト	30分	2分	1分, 2分, 5分, 10分, 15分, 30分, 無効
サスペンドタイムアウト	無効	10分	1分, 2分, 5分, 10分, 15分, 30分, 無効
HDDモータータイムアウト	無効	2分	1分, 2分, 5分, 10分, 15分, 30分, 無効
LCDバックライト	明	暗	明, 中, 暗

各項目の説明は、＜バッテリーモード省電力設定＞をご覧ください。

<リジュームタイマー>

設定した時刻にサスペンドモードから復帰する機能です。「有効」「無効」から選択し、「有効」を選択した場合は復帰する時刻を入力します。デフォルト設定は「無効」です。

お願い

- ●パネルスイッチ設定が「サスペンド」でLCDパネルが閉じられている場合は復帰しません。リジュームタイマーを使用するときはパネルスイッチ設定を「LCDオフ」にするか、LCDパネルを開けた状態で御使用ください。
- ●リジュームタイマー機能は、ハイバーネーションモードからは復帰できません。このため、下記の自動ハイバーネーション機能を設定すると、一定時間でハイバーネーションモードに入るため、設定時刻に復帰できないことがあります。

<パワースイッチ>

コンピューターの電源スイッチを操作したときの動作を設定します。「パワーオフ」「サスペンド」「ハイバーネーション」から選択します。デフォルト設定は「サスペンド」です。

<パネルスイッチ>

パネルを閉じたときの動作を「LCDオフ」「サスペンド」から選択します。「サスペンド」を選択しLCDを閉じるとシステムがサスペンド状態になり、LCDを開くと、リジュームします。LCDを閉じている間はサスペンド状態を維持します。電源スイッチでリジュームさせることはできません。Windows 95など、APMインターフェースで省電力を制御するシステムでは、サスペンドできない場合もありますので、LCDを閉じたときパワーLEDが消灯したことを確認してください。デフォルト設定は「LCDオフ」です。

<サスペンドメニュー>

Windows 95の［スタート］→［サスペンド］メニューをクリックしたときの動作を設定します。「サスペンド」「ハイバーネーション」から選択します。デフォルト設定は「サスペンド」です。

<PCカード電源>

サスペンド状態のときのPCカードの電源を設定します。「オン」「オフ」から選択します。「オフ」を選択すると、サスペンド中はPCカードの電源が強制的に切断されます。この設定のときカードによっては、次回コンピューターの電源を入れたときに正常に動作しないことがあります。デフォルト設定は「オン」です。

<自動ハイバーネーション>

サスペンド状態から設定時間経過すると、自動的にハイバーネーション状態になる機能です。「無効」「5分」「10分」「30分」「60分」「120分」より選択します。この機能はサスペンド状態になってから動作します。デフォルト設定は「無効」です。

＜バッテリー設定：放電方法＞

2本のバッテリーを同時に放電するか、または1本ずつ放電するかを設定します。「A/B同時放電」「B→Aの順に放電」から選択します。「A/B同時放電」を選択すると、2本のバッテリーを同時に放電します。「B→Aの順に放電」を選択すると、Bバッテリーから先に放電します。「A/B同時放電」を選択した方が若干使用時間が増えます。デフォルト設定は「A/B同時放電」です。

＜バッテリー設定：残量が少ないとき＞

バッテリー残量が少なくなって、これ以上システムの動作を継続できなくなったときのシステムの動作を設定します。「サスペンド」「ハイバーネーション」から選択します。デフォルト設定は「サスペンド」です。

WIN SETUPで設定する場合

Windows 95の［スタート］メニューから［プログラム］→［Panasonic］→［パワーマネージメント設定］を選択し起動します。

＜モード設定＞

［モード設定］タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

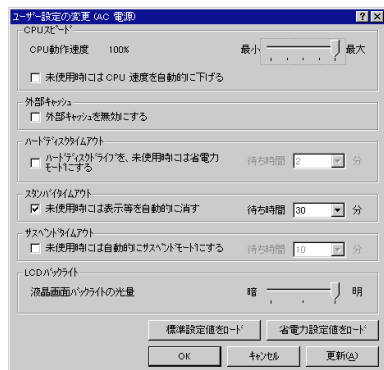
AC電源の場合

システム起動時の、ACアダプターを接続して使用するときの省電力モードを次の3種類のモードから選択します。「標準」を選択すると、システムは処理速度重視の設定になります。「省電力」を選択すると、システムは消費電力重視の設定になります。「ユーザー設定」を選択すると、詳細に設定を行う［設定の変更］ボタンが有効になります。これらの設定は、ホットキー（［Fn］キーを押しながら［F6］キーを押す）で一時的に変更することができますが、システム起動時にはここで設定した内容で動作します。[標準に戻す]ボタンをクリックすると、「標準」になります。

バッテリー電源の場合　システム起動時の、バッテリーで使用するときの省電力モードを次の３種類のモードから選択します。「標準」を選択すると、システムは処理速度重視の設定になります。「省電力」を選択すると、システムは消費電力重視の設定になります。「ユーザー設定」を選択すると、詳細に設定を行う［設定の変更］ボタンが有効になります。これらの設定は、ホットキー（［Fn］キーを押しながら［F6］キーを押す）で一時的に変更することができますが、システム起動時にはここで設定した内容で動作します。［標準に戻す］ボタンをクリックすると、「省電力」になります。

［設定の変更］ボタン　省電力機能を詳細に設定するときにクリックします。このボタンはAC電源の場合、バッテリー電源の場合ともそれぞれユーザー設定を選択しているときにクリックできます。

<ユーザー設定>

［モード設定］で［設定の変更］ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。

参考

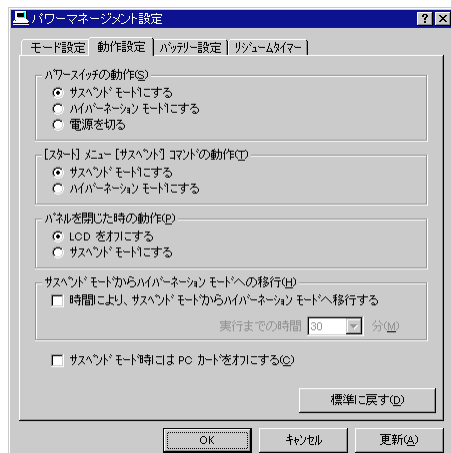
ユーザー設定には、ＡＣアダプターを接続して使用するとき、バッテリーで使用するとき、が独立に用意されています。

CPU動作速度　CPUの動作速度を「100％」、「75％」、「50％」、「25％」、「12.5％」から選択します。

未使用時にはCPU速度を自動的に下げる　一定時間キーボード、マウス、トラックボールの入力や、HDD、FDD、シリアルポート、パラレルポート、PCカード等のアクセスがなければ、CPUがストップする機能です。入力やアクセスが発生すると,CPUは元のスピードに戻ります。キーやマウスの入力待ちのような場合、節電のためにCPUの動作を停止させます。Windows 95を使用しているときは、より効率的な節電方法が行われるため、この設定は無視されます。

外部キャッシュを無効にする	CPU外部に接続するキャッシュの動作を設定します。 チェックボックスをチェックすると外部キャッシュの動作を停止し、電力の消費を抑えます。
ハードディスクタイムアウト	設定した時間、HDDにアクセスがなければ、HDDモーターが停止する機能です。アクセスが発生するとHDDは元の状態に戻ります。有効にするには、チェックボックスをチェックし、実行までの待ち時間を「1分」「2分」「5分」「10分」「15分」「30分」から選択します。
スタンバイタイムアウト	設定した時間 キーボード、マウス、トラックボールの入力や、HDD、FDD、シリアルポート、パラレルポート、PCカード等のアクセスがなければ、ディスプレイがオフになり、システムはスタンバイモードになる機能です。入力やアクセスが発生すると、ディスプレイの表示が元に戻ります。 有効にするには、チェックボックスをチェックし、実行までの待ち時間を「1分」「2分」「5分」「10分」「15分」「30分」から選択します。
サスペンドタイムアウト	設定した時間キーボード、マウス、トラックボールの入力や、HDD、FDD、シリアルポート、パラレルポート、PCカード等のアクセスがなければ、システムがサスペンドする機能です。有効にするには、チェックボックスをチェックし、実行までの待ち時間を「1分」「2分」「5分」「10分」「15分」「30分」から選択します。パワースイッチの動作を「ハイバーネーションする」に設定していると、ハイバーネーションします。
LCDバックライト	ＡＣアダプターを接続して使用するときのLCDバックライトの輝度を、「明」「中」「暗」から選択します。暗くするほど消費電力は少なくなります。
［標準設定値をロード］ボタン	ユーザー設定の各項目に、モード設定で標準を選択したときの値を設定します。
［省電力設定値をロード］ボタン	ユーザー設定の各項目に、モード設定で省電力を選択したときの値を設定します。

＜動作設定＞

［動作設定］タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

パワースイッチの動作

コンピューターの電源スイッチを操作したときの動作を「サスペンドモードにする」「ハイバーネーションモードにする」「電源を切る」から選択します。［標準に戻す］ボタンをクリックすると、「サスペンドモードにする」になります。

［スタート］メニュー［サスペンド］コマンドの動作

Windows 95の［スタート］→［サスペンド］メニューをクリックしたときの動作を「サスペンドモードにする」「ハイバーネーションモードにする」から選択します。［標準に戻す］ボタンをクリックすると、「サスペンドモードにする」になります。

パネルを閉じたときの動作

LCDパネルを閉じたときの動作を「LCDをオフにする」「サスペンドモードにする」から選択します。「サスペンドモードにする」を選択しLCDパネルを閉じるとシステムがサスペンドになり、LCDパネルを開くと、リジュームします。LCDパネルを閉じている間はサスペンドモードを維持します。電源スイッチでリジュームさせることはできません。Windows 95など、APMインターフェースで省電力を制御するシステムでは、サスペンドモードにできない場合もありますので、LCDを閉じたときパワーLEDが消灯したことを確認してください。［標準に戻す］ボタンをクリックすると、「LCDをオフにする」になります。

サスペンドモードからハイバーネーションモードへの移行
サスペンド状態から設定時間経過すると、自動的にハイバーネーション状態になる機能です。有効にするには、チェックボックスをチェックし、実行までの待ち時間を「5分」「10分」「30分」「60分」「120分」から選択します。この機能はサスペンド状態になってから動作します。[標準に戻す] ボタンをクリックすると無効になります。

サスペンドモード時にはＰＣカード電源をオフする
サスペンドモードのときのＰＣカードの電源を設定します。チェックボックスをチェックすると、サスペンド中はＰＣカードの電源が強制的に切断されます。この設定のときカードによっては、次回コンピューターの電源を入れたときに正常に動作しないことがあります。[標準に戻す] ボタンをクリックすると、無効になります。

＜バッテリー設定＞

［バッテリー設定］タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

バッテリー放電方法
2本のバッテリーを同時に放電させるか、または1本ずつ放電させるかを設定します。「バッテリーＢ→Ａ」を選択すると、Ｂバッテリーから先に使用します。「バッテリーＡ，Ｂを同時に放電する」を選択すると、2本のバッテリーを同時に使用します。「バッテリーＡ，Ｂを同時に放電する」を使用した方が若干使用時間が増えます。[標準に戻す］ボタンをクリックすると、「バッテリーＡ，Ｂを同時に放電する」になります。

バッテリー残量が少なくなったときの動作　バッテリー残量が少なくなって、これ以上システムの動作を継続できなくなったときのシステムの動作を「自動的にサスペンドモードにする」「自動的にハイバーネーションモードにする」から選択します。［標準に戻す］ボタンをクリックすると、「自動的にサスペンドモードにする」になります。

<リジュームタイマー>

「リジュームタイマー」タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

リジュームタイマー　設定した時刻にサスペンドモードから復帰する機能です。有効にするには、チェックボックスをチェックし、復帰する時刻を入力します。［標準に戻す］ボタンをチェックすると、無効になります。

お願い

- 動作設定タブの“パネルを閉じたときの動作”で「サスペンドモードにする」を選択しており、LCDパネルが閉じられている場合は復帰しません。リジュームタイマーを使用するときは、“パネルを閉じたときの動作”で「LCDをオフにする」を選択するか、LCDパネルを開けた状態でご使用ください。
- リジュームタイマー機能は、ハイバーネーションモードからは復帰できません。このため、動作設定タブの“サスペンドモードからハイバーネーションへの移行”を設定すると一定時間でハイバーネーションモードに入るため、設定時刻に復帰できないことがあります。

画面の解像度と色数

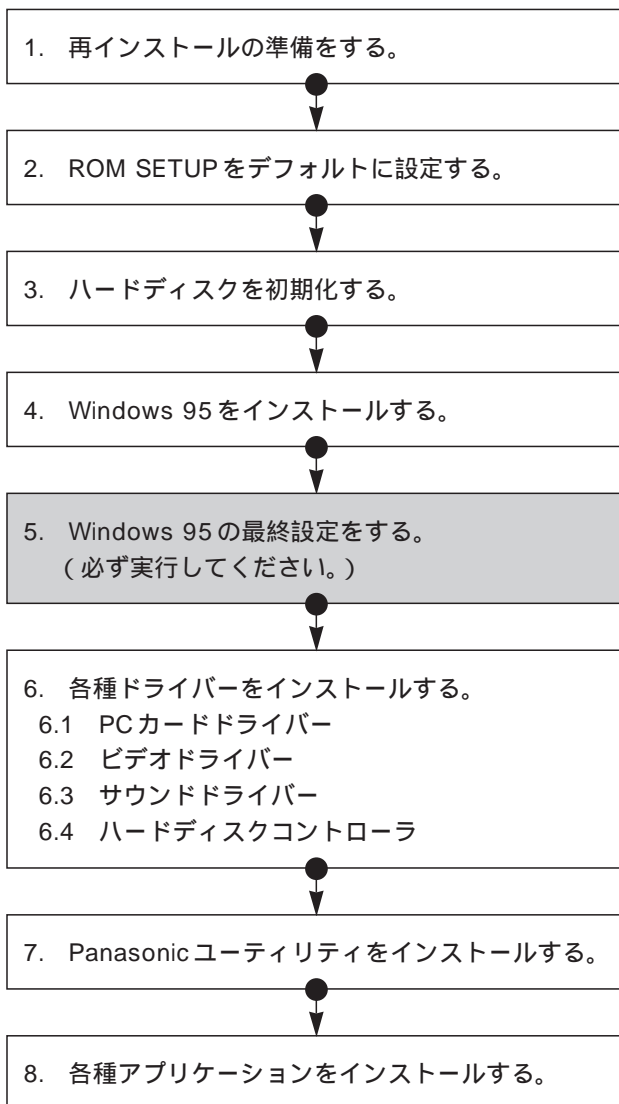
画面の解像度と色数は下表の○印をサポートしています。
○-表示可能

	外部モニター	内部 LCD	同時表示
640×480　16色　＊3	○	○	○
640×480　256色　＊3	○	○	○
640×480　64 K色　＊1 ＊3	○	○	○
640×480　16 M色　＊2 ＊3 ＊5	○	○	○
800×600　256色	○	○	○
800×600　64 K色　＊1	○	○	○
800×600　16 M色　＊2 ＊5	○	○	○
1024×768　256色　＊4	○	○	○
1024×768　64 K色　＊1	○	○	○

＊1　Windows 95の場合は、High Colorという表現になります。
＊2　Windows 95の場合は、True Colorという表現になります。
＊3　640×480の内部LCDまたは同時表示は、画面の中央に小さく表示されます。
＊4　1024×768の内部LCDまたは同時表示は、画面全体の一部（800×600）が表示されます。
＊5　LCDの表示は、260 k色となります。

初期環境を再インストールする

Windows 95などは、あらかじめハードディスクにインストールされていますが、ハードディスクが壊れたり、内容を消去してしまった場合、以下の手順に従って再インストールすることができます。

＜再インストールの手順＞

各手順の詳細を以下に説明します。

お願い

再インストール中は、電源を切ったりサスペンド状態にならないようにしてください。

参考

再インストールを行っても、ハードディスクの内容すべてを初期状態に戻すことはできません。
一部のプログラムは再インストールされません。

1. 再インストールの準備をする。

1. 下記のものを準備します。
   - あらかじめ作成しておいたシステムディスク（P. 20参照）
   - 付属の「Windows 95 CD-ROM」と「Internet Explorer CD-ROM」
   - 外付けフロッピーディスクドライブ
   - PCカード対応のCD-ROMドライブ（別売）
     システムディスクの作成のしかたの手順6（P. 21参照）で使用したCD-ROMドライブを準備してください。
2. コンピューターの電源を切ります。
3. 全ての周辺機器を取り外します。
4. 外付けフロッピーディスクドライブを取り付けます。
5. CD-ROMドライブ（別売）を取り付けます。
   取り付けかたについては、CD-ROMドライブに付属の説明書をご覧ください。

2. ROM SETUPをデフォルト設定にする。

Windows 95のインストール時にシステムに存在するデバイスの検出を行います。システムに存在するデバイスの状態を出荷状態にするために、ROM SETUPの設定をデフォルトに設定します。デフォルトに設定しておかないと、以降のインストール手順が実際の手順と一致しなくなる可能性があります。

1. コンピューターの電源を入れます。
2. 「Press F1 for Setup」と画面に表示されたら、[F1]を押します。
3. 「セットアップユーティリティー」画面が表示されます。
   「デフォルト設定」を選択して [Enter]を押します。
4. 「デフォルト設定」画面が表示されます。もう一度[Enter]を押します。
5. 「終了」を選択して[Enter]を押します。
6. 「終了」画面が表示されたら、「はい、保存して、セットアップユーティリティーを終了する。」を選択して[Enter]を押します。

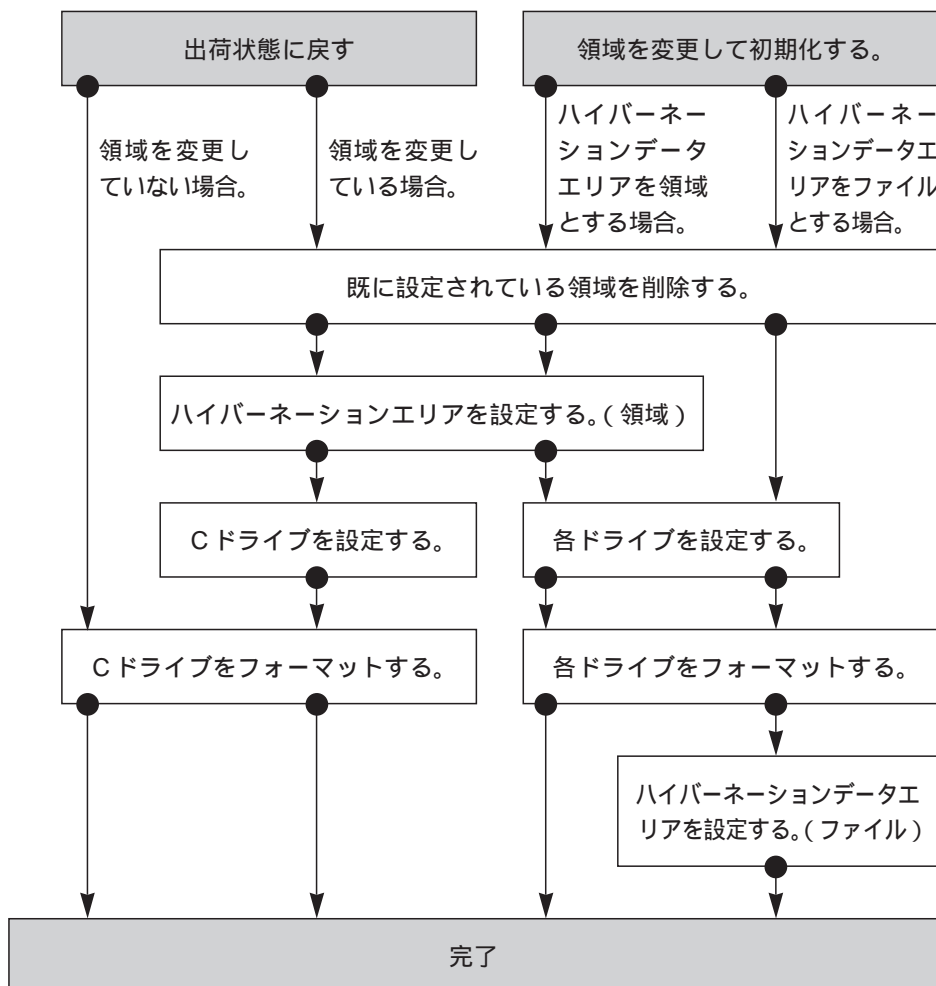
ROM SETUPの設定がすでにデフォルトになっている場合は、「はい、保存して、セットアップユーティリティーを終了する。」は表示されません。この場合は、「はい、セットアップユーティリティーを終了する。」を選択して[Enter]を押します。

3. ハードディスクを初期化する。

Windows 95をインストールする前に、ハードディスクを初期化します。
ハードディスクを初期化すると、作成した文書などのファイルは消えてしまいます。必要なファイルはフロッピーディスクなどに保存しておいてください。

出荷状態のハードディスクは次のように初期化されています。

領域	サイズ	ファイルシステム	内容
1	1965 MB	FAT16	C：ドライブ
2	98 MB	Non-Dos	ハイバーネーション領域

<ハードディスクの初期化手順>

出荷状態に戻したい方や、コンピューターに関して詳しい知識のない方は、**【出荷状態に戻す】**の手順に従ってハードディスクを初期化してください。
領域を変更したい方は、**【領域を変更して初期化する】**を参照してください。
ハイバーネーションデータエリアの作成に関する詳細な内容は、「ハイバーネーションデータエリアについて」（P. 87）を参照ください。

【出荷状態に戻す】

ここでは、出荷状態に戻す手順を説明します。
あらかじめ作成しておいた「AL-N2 保存ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、コンピューターを起動します。
ハードディスクの領域を出荷状態のまま変更していない方は、C ドライブをフォーマットすれば完了です。手順 13（P. 68）から実行してください。
ハードディスクの領域を既に変更している方は、1 から実行してください。

1. 設定されている領域を削除します。A：＼＞ FDISK［Enter］と入力します。
2. 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y/N）.. ？［N］」というメッセージが表示されますので、［N］を入力して［Enter］を押します。
3. 下記のような画面が表示されます。
「3．領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選択して、設定してあるすべての領域を削除してください。

```
FDISK オプション

現在のハードディスク：1

次のうちからどれか選んでください。

1.    MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成

2.    アクティブな領域を設定

3.    領域または論理 MS-DOS ドライブを削除

4.    領域情報を表示


どれか選んでください：［3］
```

4. 領域の削除が完了したら、［ESC］を押して、FDISK を終了した後、コンピューターを再起動します。
5. 次に、ハイバーネーションデータエリアを領域として確保します。
A：＼＞HBUTIL　P　96［Enter］と入力します。
6. 「ハイバーネーション用の領域が作られました..」というメッセージが表示されたことを確認して、コンピューターを再起動します。

7. 次に、C ドライブ領域を確保します。
   A ：＼＞ FDISK［Enter］と入力します。
8. 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y/N）．．？［N］」
   というメッセージが表示されますので、［N］を入力して［Enter］を押します。
9. 次のような画面が表示されます。
   「1．MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選択します。

```
FDISK オプション
現在のハードディスク：1
次のうちからどれか選んでください。
1.      MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2.      アクティブな領域を設定
3.      領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4.      領域情報を表示

どれか選んでください：［1］
```

10. 次のような画面が表示されます。「1．基本 MS-DOS 領域を作成」を選択します。

```
MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
現在のハードディスク：1
次のうちからどれか選んでください。
1.      基本 MS-DOS 領域を作成
2.      拡張 MS-DOS 領域を作成
3.      拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれか選んでください：［1］
```

11. 次のような画面が表示されます。［Y］を入力してください。
    C ドライブ領域が作成されます。

```
基本 MS-DOS 領域を作成
現在のハードディスク：1
基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか
（同時にその領域をアクティブにします）（Y/N）…？［Y］
```

解説編

12. ［ESC］を押して、FDISKを終了した後、コンピューターを再起動します。
13. Cドライブをフォーマットします。
    A：＼＞ FORMAT C：［Enter］と入力します。
14. フォーマットしますか (Y/N)? のメッセージが表示されたら［Y］を入力して、［Enter］を押します。
15. Cドライブがフォーマットされます。
16. フォーマットが完了したら、ボリュームラベルを入力するメッセージが表示されます。必要ならば、入力してください。ボリュームラベルは、Windows 95をインストールした後で、入力したり変更したりすることができます。

【領域を変更して初期化する】

ここでは、領域を変更して初期化するための手順を説明します。コンピューターに関して詳しい知識のない方は以下の手順を実行しないでください。

ハードディスクの初期化方法は、FAT16とFAT32の2種類の方法があります。FAT32で初期化するとディスクの使用効率が向上しますが、次の点に注意してください。

●FAT32をサポートしていないオペレーティングシステムから起動したとき、FAT32で初期化したディスクは読めません。
　例：MS-DOS6.2をフロッピーディスクから起動したとき、ハードディスクの内容を読めません。
●FAT32に対応していないディスク管理ユーティリティを実行すると、ハードディスクのデータが壊れることがあります。
●ハイバーネーション領域をファイルとして確保できません。

ハイバーネーションデータエリアを領域として設定する場合。

1. あらかじめ作成しておいた「AL-N2保存ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、コンピューターを起動します。
2. 既に設定されている領域を削除します。 A：＼＞ FDISK［Enter］と入力します。
3. 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y/N）.. ？［N］」というメッセージが表示されます。［N］を入力して［Enter］を押します。
4. 「3．領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択して、設定してある全ての領域を削除してください。
   削除した後、FDISKを終了してコンピューターを再起動します。

5. 次に、ハイバーネーションデータエリアを領域として確保します。
A：\＞HBUTIL　P［システムメモリサイズ］［Enter］と入力します。
例えば、システムメモリサイズが32MBの場合は
A：\＞HBUTIL　P 32［Enter］と入力します。
6. 「ハイバーネーション用の領域が作られました..」というメッセージが表示されたことを確認して、コンピューターを再起動します。
7. 次に、各ドライブ領域を設定します。
A：\＞ FDISK［Enter］と入力します。
8. 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y/N）.. ？［N］」というメッセージが表示されます。
FAT16で初期化する場合は、［N］を入力して［Enter］を押します。
FAT32で初期化する場合は、［Y］を入力して［Enter］を押します。
9. 「1．MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択して、各ドライブ領域を設定してください。
領域を作成した後、FDISKを終了してコンピューターを再起動します。
10. 最後に、各ドライブをFORMATコマンドでフォーマットします。

ハイバーネーションデータエリアをファイルとして設定する場合。

この方法は、FAT16で初期化する場合のみ有効です。

1. あらかじめ作成しておいた「AL-N2保存ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、コンピューターを起動します。
2. 次に、各ドライブ領域を設定します。
A：\＞ FDISK［Enter］と入力します。
3. 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか（Y/N）.. ？［N］」というメッセージが表示されますので、**［N］を入力して［Enter］を押します。**
4. 「3．領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択して、不要な領域を削除してください。
5. 「1．MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択して、各ドライブ領域を設定してください。
設定した後、FDISKを終了してコンピューターを再起動します。
6. 各ドライブをFORMATコマンドでフォーマットします。
7. 最後に、ハイバーネーションデータエリアをファイルとして設定します。
A：\＞HBUTIL　F　［Enter］と入力します。
「ハイバーネーション用ファイルの作成が終了しました..」というメッセージが表示されたことを確認して、コンピューターを再起動します。

4. Windows 95 をインストールする。

お買い上げの設定にするには、各項目を下表のように設定してください。

項目	選択肢
インストールするディレクトリ	C:\WINDOWS
セットアップ方法	標準
インストールするファイルの選択	Microsoft Exchange
	Microsoft FAX
	The Microsoft Network
	アクセサリ（すべて選択）
	ディスク管理ツール（すべて選択）
	マルチメディア(CD プレーヤー以外をすべて選択)
	ユーザー補助
	通信は、デフォルトのまま変更しない

1. あらかじめ作成しておいた「マイクロソフトウインドウズ95 CD-ROM セットアップ起動ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、付属の「Windows 95 CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットし、コンピューターの電源を入れます。
   メニューが表示されたら、使用しているドライブを選択してください。
2. CD-ROM ドライブからシステムファイルが転送されます。
3. 「セットアップへようこそ。」という青い画面が表示されます。画面に表示されるメッセージに従って、インストールを続けます。
4. 「ディレクトリの選択」画面が表示されたら、「C ： \WINDOWS」を選択して「次へ」をクリックします。
5. 「セットアップ方法」画面が表示されたら、「標準(T)」を選択して「次へ」をクリックします。
6. 「Certificate of Authenticity」画面が表示されます。付属の『ファーストステップガイド』の表紙に記載されている番号を入力して「次へ」をクリックします。
7. 「ユーザー情報」画面が表示されます。名前と会社名を入力して「次へ」をクリックします。
8. 「コンピューターの調査」画面が表示されます。「サウンド、MIDI、またはビデオキャプチャーカード」の左側の □ をクリックして、チェックマークを付けてから「次へ」をクリックします。
9. コンピューターの調査が始まります。しばらくすると、「Windows ファイルの選択」画面が表示されます。「インストールするオプションを選択する(S)」の左側の ○ をクリックして、チェックマークを付けてから「次へ」をクリックします。

10. 「インストールするファイルの選択」画面が表示されます。必要なアプリケーションを選択してください。「通信」はデフォルトのまま変更しないでください。選択が終了したら「次へ」をクリックします。
11. 「起動ディスク」画面が表示されます。作成する場合は「はい」作成しない場合は「いいえ」の左側の ○ をクリックして「次へ」をクリックします。「起動ディスク」はシステムディスクを作成したときに作成済みですが、なくしてしまった方はここで作成しておいてください。
12. 「コピー開始」画面が表示されます。以降はメッセージに従ってインストールを続けてください。
13. 「コピー完了」画面が表示されたら、フロッピーディスクと CD-ROM を取り出して「完了」をクリックしてください。
14. 「Microsoft Exchange」をインストールした場合、再起動後「受信トレイセットアップウィザード」が起動します。ここでは「キャンセル」を選択して次に進んでください。受信トレイは後で設定してください。
15. 「プリンタウィザード」画面が表示されます。プリンターを接続している場合は「次へ」をクリックし、画面の表示に従ってプリンターを設定します。接続していない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。「システムの設定を完了しました」という画面が表示されたら「OK」をクリックしてください。
16. Windows 95 の再起動中に「プライマリ IDE コントローラ（シングル FIFO）」が検出されることがあります。「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「いいえ」をクリックしてください。
    IDE コントローラが検出されたときだけ、16 17 の手順を実施してください。
17. 次に「セカンダリ IDE コントローラ（シングル FIFO）」が検出されます。「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、今度は「はい」をクリックしてください。
18. コンピューターが再起動して「Windows 95 へようこそ」画面が表示されます。

5. Windows 95 の最終設定をする。

お願い

以下の手順を実行しないと「6．各種ドライバーをインストールする。」が正常に実行できません。**必ず以下の手順を実行してください。**

5.1 キーボードを設定する。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を順に選んで、「キーボード」アイコンをダブルクリックします。
2. 「情報」タブをクリックして、「変更」をクリックします。
3. 「デバイスの選択」画面で「すべてのデバイスを表示」の左側の ○ をクリックしてマークを付けます。

4.「モデル」一覧の上から 3 番目の「106 日本語（A01）キーボード(Ctrl＋英数)」を選択して「OK」をクリックします。
5.「ディスクの挿入」画面が表示されたら「OK」をクリックします。
6.「参照」をクリックし、「C：\ CABS」を指定して「OK」をクリックします。
7.「ファイルのコピー元」に「C：\ CABS」と表示されていることを確認して「OK」をクリックします。
8.「キーボードのプロパティ」画面に戻ったら「閉じる」をクリックして、メッセージに従って再起動してください。

5.2 電源のプロパティを設定する。

1.「コントロールパネル」の「パワーマネジメント」アイコンをダブルクリックします。
2.「パワーマネジメント」タブをクリックします。
3.「すべてのバッテリー状態を表示する(E)」の左側の □ をクリックしてマークを付けます。バッテリーが 2 本表示されるようになります。
4.「ディスクドライブ」タブをクリックします。
5.「電源が AC 電源の場合(P)」と「電源がバッテリーの場合(B)」の左側のマークを消した状態にします。
   ディスクドライブのパワーマネジメントは、「スタート」→「Panasonic」→「パワーマネジメント設定」で設定します。
   電源のプロパティで設定すると、「パワーマネジメント設定」で設定した内容と矛盾が生じます。

5.3 各種ドライバーのインストール準備をする。

各種ドライバーをインストールするために、いくつかのファイルを更新します。

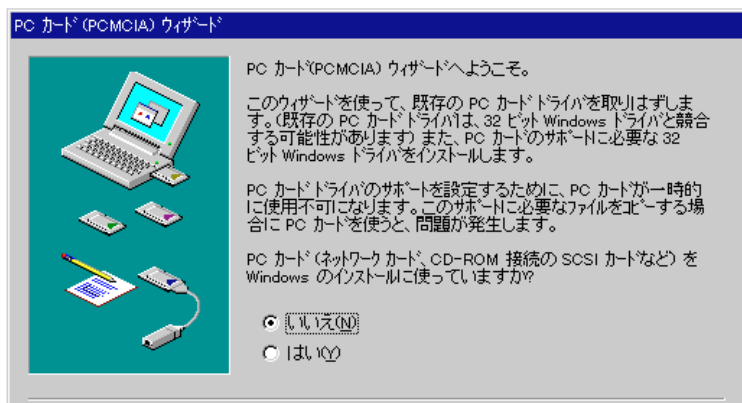
1. フロッピーディスクドライブにあらかじめ作成しておいた「ユーティリティディスク3」をセットします。
2. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
3. 「名前(O)」に「A：\RESTWIN」と入力し「OK」をクリックします。
4. DOSウインドウのタイトルバーに「完了－restwin」と表示されたら、右上の「×」をクリックしてDOSウインドウを閉じてください。
5. フロッピーディスクドライブから「ユーティリティディスク3」を抜きます。
6. 「スタート」→「Windowsの終了(U)」をクリックします。
7. 「コンピューターを再起動する(R)」を選択して「はい(Y)」をクリックします。

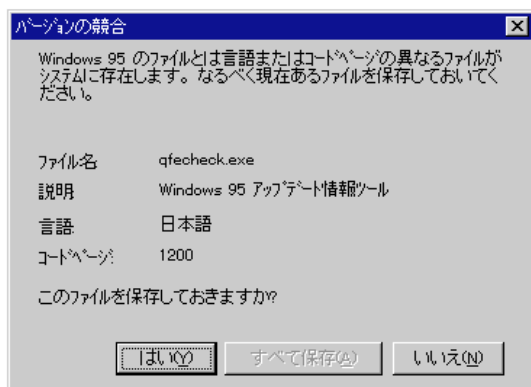
6. 各種ドライバーをインストールする。

6.1 PCカードドライバー

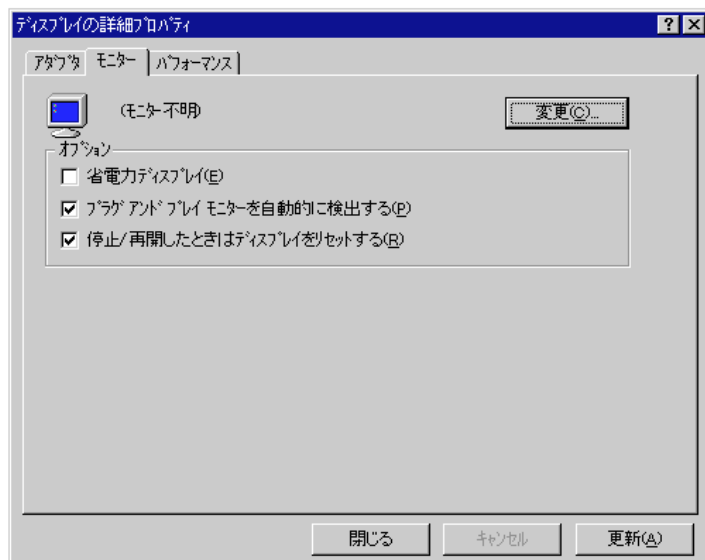
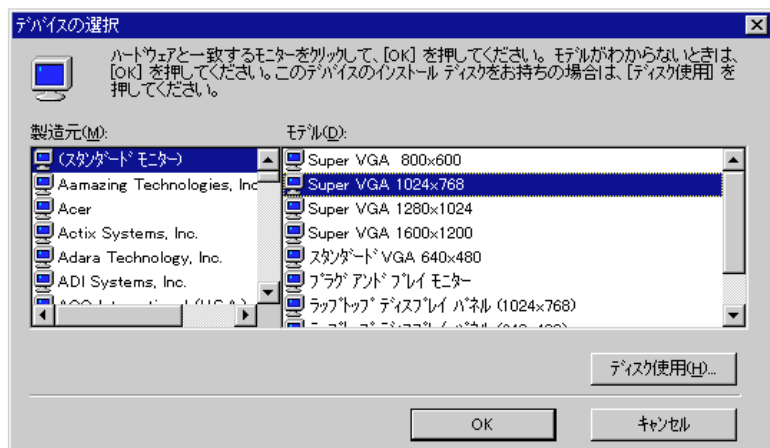
PCカードを使用できる状態に設定します。

1. 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックします。
2. 「デバイスマネージャー」タブをクリックすると、次のような画面が表示されます。「その他のデバイス」ツリーに現れている「PCI CardBus Bridge」を2つとも削除します。「PCI CardBus Bridge」をクリックして選択してから「削除(E)」をクリックすると削除できます。

3. 「閉じる」をクリックして「システムのプロパティ」を終了します。
4. 「スタート」→「Windows の終了(U)」をクリックします。
5. 「コンピューターを再起動する(R)」を選択して「はい(Y)」をクリックします。
6. 「Windows 95 CD-ROM」のセットを指示するメッセージが表示されたら「OK」をクリックします。ファイルが見つからなかったことを知らせるメッセージが表示されます。(PC カードの設定中は、CD-ROM ドライブが認識できないため、上記メッセージが表示されます。)
7. 「D：\ WIN 95」を「C：\ CABS」に変更して、「OK」をクリックします。
8. Windows 95 が起動したら、フロッピーディスクドライブにあらかじめ作成しておいた「ユーティリティディスク 3」をセットします。
9. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
10. 「名前(O)」に「A：\PCIC」と入力し「OK」をクリックします。
11. DOS ウインドウのタイトルバーに「完了－pcic」と表示されたら、右上の「×」をクリックして DOS ウインドウを閉じてください。
12. フロッピーディスクドライブから「ユーティリティディスク 3」を取り出します。
13. 「スタート」→「Windows の終了 (U)」をクリックします。
14. 「コンピューターを再起動する(R)」を選択して「はい(Y)」をクリックします。
15. Windows 95 が起動したら、「コントロールパネル」の「PC カード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックします。
16. 次のような「PC カード (PCMCIA) ウイザード」画面が表示されます。「いいえ (N)」の左側の ○ をクリックしてマークを付けてから「次へ」をクリックしてください。

17. 次の画面では、「いいえ (N)」の左側の ○ をクリックしてマークを付けてから「次へ」をクリックしてください。
18. 最後の画面では、「完了」をクリックしてください。
19. 「コンピューターを終了しますか？」というメッセージが表示されたら「はい (Y)」をクリックしてください。コンピューターの電源が切れます。
20. CD-ROM ドライブを取り外してから、コンピューターの電源を入れます。

21. Windows 95が起動したら、あらかじめ作成しておいた「ユーティリティディスク3」をフロッピーディスクドライブにセットします。
22. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
23. 「名前(O)」に「A：\PCCARDUP」と入力し「OK」をクリックします。
24. 「Windows 95 Update」画面が表示されたら「はい (Y)」をクリックします。
25. 次のような「バージョンの競合」画面が表示されたら、「はい (Y)」をクリックします。

26. 「Update complete!」と表示されたら、「OK」をクリックします。
27. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行（R)」をクリックします。
28. 「名前（O)」に「A：\CARDBUPD」と入力し「OK」をクリックします。
29. 手順24→26と同じやりかたでインストールします。
30. フロッピーディスクドライブから「ユーティリティディスク3」を取り出します。
31. 「スタート」→「Windowsの終了（U)」→「コンピューターを再起動する（R)」を選択して、Windows 95を再起動します。
32. Windows 95が起動したら、フロッピーディスクドライブに「ユーティリティディスク3」をセットします。
33. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行（R)」をクリックします。
34. 「名前（O)」に「A：\PCIUPD」と入力し「OK」をクリックします。
35. 手順24→26と同じやりかたでインストールします。

6.2 ビデオドライバー

1. フロッピーディスクドライブにあらかじめ作成しておいた「ドライバーディスク1」をセットします。
2. 「コントロールパネル」の「画面」アイコンをダブルクリックします。
3. 「ディスプレイの詳細」タブをクリックします。
4. 「詳細プロパティ (A)」ボタンをクリックします。
5. 「アダプタ」タブの「変更 (C)」をクリックします。
6. 「ディスク使用 (H)」ボタンをクリックします。
7. 「配布ファイルのコピー元」が「A:\」であることを確認して「OK」をクリックします。
8. 「NeoMagic MagicGraph 128XD」が表示されていることを確認して「OK」をクリックします。ドライバーのコピーが始まります。
9. 「ディスプレイの詳細プロパティ」の「モニター」タブをクリックすると次のような画面が表示されます。「変更 (C)」をクリックします。

10. 「モデル (D)」の中から「Super VGA 1024x768」を選択し、「OK」をクリックします。

11. 「アダプタ」タブをクリックして、「リフレッシュレート (R)」で「アダプタの標準」を選択します。

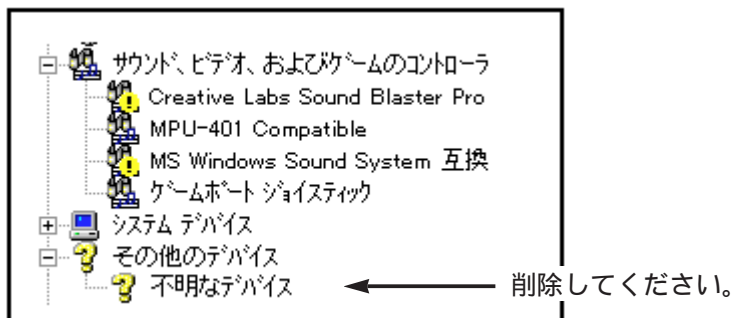
12. 「閉じる」をクリックします。
13. 「ディスプレイの詳細」画面で、次の設定を行います。

項目	設定
カラーパレット	High Color（16ビット）
デスクトップ領域	800×600ピクセル
タスクバーに設定インジケータを表示する	選択する

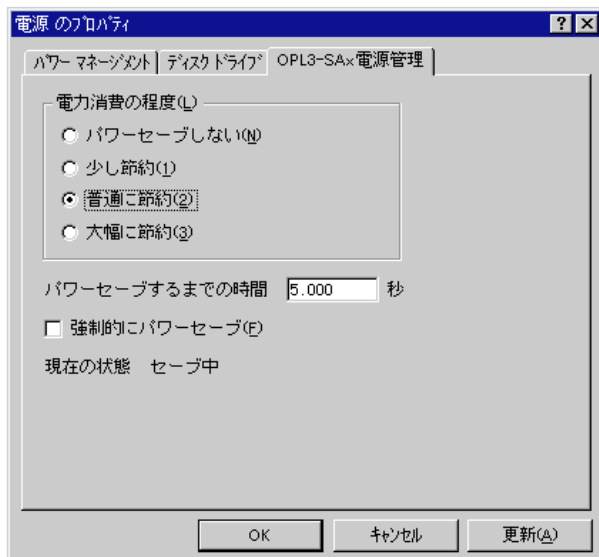
14. 「閉じる」をクリックします。
15. フロッピーディスクドライブから「ドライバディスク1」を取り出します。
16. 「再起動しますか？」というメッセージが表示されますので「はい (Y)」をクリックします。

6.3 サウンドドライバー

1. 「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックします。
2. 「デバイスマネージャー」タブをクリックすると、次のような画面が表示されます。「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」ツリーに現れている4つのデバイスを次の順番で削除します。
   1) ゲームポートジョイスティック
   2) MS Windows Sound System互換
   3) MPU－401 Compatible
   4) Creative Labs Sound Blaster Pro

その他のデバイスに「不明なデバイス」が表示されている場合
「不明なデバイス」も削除してください。

3. 「再起動しますか？」というメッセージが表示されたら「はい（Y)」をクリックします。システムが再起動します。
   再起動のメッセージは表示されないことがあります。
   その場合は「スタート」→「Windows の終了（U)」をクリックして、「コンピューターを再起動する（R)」を選択した後、「はい（Y)」をクリックします。
4. Windows 95 の再起動中に、次のような「デバイスドライバーウィザード」画面が表示されます。フロッピーディスクドライブにあらかじめ作成して

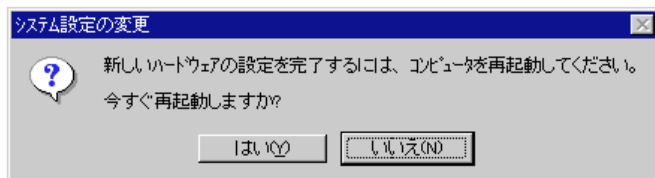
5. 「YAMAHA OPL3－SAx Sound System」が見つかったことを確認して、「完了」をクリックします。
6. ディスク挿入のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
7. 「ファイルのコピー」画面で、「ファイルのコピー元」に「A：\」と入力して「OK」をクリックします。ドライバーのコピーが始まります。
8. メッセージに従って「ドライバーディスク2」をセットしてください。（ドライバーディスク2のコピーは時間がかかります。）
9. Windows 95が起動したら、「コントロールパネル」の「パワーマネジメント」アイコンをダブルクリックします。
10. OPL3－SAx電源管理タブをクリックすると、次のような画面が表示されます。

お買い上げの状態に戻すためには「電力消費の程度(L)」を「普通に節約(2)」に設定してください。
モデムカードなど、PCカードからの音を本体のスピーカーで鳴らす場合は、「少し節約 (1)」か「パワーセーブしない (N)」に設定してください。
「大幅に節約 (3)」は深いレベルまで省電力状態にするため、サウンドコントローラが省電力モードに入るときや、復帰するときにスピーカーから音が出ることがあります。

11.「コントロールパネル」の「OPL3－SAx Config」をダブルクリックすると、各種サウンドの設定ができます。

6.4 ハードディスクコントローラ

ハードディスクコントローラは、デフォルトで「シングルFIFO」のドライバーがインストールされます。これを「デュアルFIFO」のドライバーに変更します。

1.「コントロールパネル」の「システム」アイコンをダブルクリックします。
2.「デバイスマネージャー」タブをクリックすると、次のような画面が表示されます。「ハードディスクコントローラ」ツリーに現れている「スタンダードPCI IDEコントローラ」を削除します。「スタンダードPCI IDEコントローラ」をクリックして選択してから「削除(E)」をクリックすると削除されます。

3. 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい (Y)」をクリックしてください。コンピューターは再起動します。
4. Windows 95 の再起動中に新しいコントローラが検出されます。次のようなメッセージが表示されますので「いいえ (N)」をクリックします。

5. もう一度新しいデバイスが検出されます。「今すぐ再起動しますか？」というメッセージがもう一度表示されますので、今度は「はい (Y)」をクリックしてコンピューターを再起動してください。

7. Panasonic ユーティリティをインストールする。

「パワーマネジメント設定」や「補足説明」をインストールします。

1. フロッピーディスクドライブに、あらかじめ作成しておいた「ユーティリティディスク1」をセットします。
2. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
3. 「名前 (O)」に「A ： \SETUP」と入力し「OK」をクリックします。
4. 「パワーマネジメント設定セットアップ」が起動します。画面に表示されるメッセージに従ってインストールしてください。
5. 「次のラベルのディスクを挿入してください‘ ディスク2 ’ ドライブ A ：」と表示されたら、「ユーティリティディスク2」をセットして「OK」をクリックしてください。

8. 各種アプリケーションをインストールする。

8.1 MS-IME97 日本語入力システムをインストールする

1. 同梱されている「Windows 95 CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットします。
2. 「Windows 95 CD-ROM」の「other\msime97a\msime97.exe」をクリックして実行します。
3. 「MS-IME97 For Windows 95 Upgrade セットアップ」が起動しますので、画面に表示されるメッセージに従ってインストールしてください。

8.2 Internet Explorer4.0 をインストールする

1. 同梱されている「Internet Explorer CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットします。
2. 自動的にメニューが起動しますので、「IE4.0 のインストール」を選択してください。
3. 画面に表示されるメッセージに従ってインストールしてください。お買上げの状態に戻すためには、すべての項目をデフォルトでインストールします。

各種設定を行う

設定を行う前に、システムディスクを作成しておいてください。

1 Windows 95 で 1.2 Mバイトのフロッピーディスクの読み書きができるようにする。

出荷状態では、Windows 95 用の３モード FD ドライバーはインストールされていません。1.2M バイトのフロッピーディスクを読み書きする必要のある方は、以下の手順に従ってドライバーをインストールしてください。

1. フロッピーディスクドライブにあらかじめ作成しておいた「ドライバーディスク１」をセットします。
2. 「スタート」ボタンをクリックし、「設定（Ｓ）」にポインタを置きます。
3. 「コントロールパネル（Ｃ）」をクリックして、「ハードウェア」アイコンをダブルクリックします。
4. 「ハードウェアウィザード」ウインドウで「次へ」ボタンをクリックします。
5. 「いいえ」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。
6. 「ハードウェアの種類(H)」の中の、「フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリックします。
7. 「ディスク使用（Ｈ）」ボタンをクリックし、「配布ファイルのコピー元」が「Ａ：＼」であることを確認し、「ＯＫ」ボタンをクリックします。
8. 「パナソニック３モードフロッピーディスク（Let's note シリーズ）」が表示されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。
9. 「完了」ボタンをクリックします。
10. フロッピーディスクドライブから「ドライバーディスク１」を抜いて、「システム設定の変更」ウインドウの「はい（Ｙ）」をクリックします。

2 Windows 95 の赤外線ドライバーをインストールする。

Windows 95 の赤外線ドライバーをインストールすると、赤外線ポート経由でケーブル接続ができるようになります。インストール手順は次の通りです。

1. 「スタート」ボタンをクリックし、「設定（S）」にポインタを置きます。
2. 「コントロールパネル（C）」をクリックして、「ハードウェア」アイコンをダブルクリックします。
3. 「ハードウェアウィザード」が起動したら、「次へ」ボタンをクリックします。
4. 「いいえ」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。
5. 「ハードウェアの種類（H）」で「赤外線」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

6.「赤外線デバイスウィザード」が起動したら、「次へ」ボタンをクリックします。
7.「製造元（M）」で「スタンダード赤外線デバイス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。
8.「一般の赤外線シリアルポート（COM2）」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。
9.「標準のポートを使用」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。（赤外線通信ドウライバーがセットアップされます。Windows の Disk を挿入するメッセージが表示されたら指示に従ってください。）
10.「完了」ボタンをクリックします。

3 トラックボールの設定をする。

添付の MouseWare 95 をインストールすると、トラックボールの動作に関して詳細な設定ができるようになります。インストール手順は次の通りです。

1. フロッピーディスクドライブにあらかじめ作成しておいた「MouseWare95 ディスク 1」をセットします。
2.「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
3.「名前（O）」に「A：\SETUP」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。
4. インストールプログラムが起動したら、表示されるメッセージに従ってインストールしてください。最後にコンピューターを再起動することになります。
5. Windows 95 が再起動したら、［スタート］→［設定（S）］→［コントロールパネル］とクリックして、「マウス」をダブルクリックします。
6.「新しいデバイス」画面が表示されますので、「はい（Y）」をクリックします。
7.「デバイスセットアップウィザード」画面が表示されますので、「次へ（N）」をクリックします。
8. 以降、トラックボールの設定画面が表示されます。お好みに合わせて設定してください。

参考

MouseWare95 を導入すると、一部の外部マウスで動作がおかしくなることがあります。
問題が発生した場合は、「アプリケーションの追加と削除」で「マウスウェア」を削除してください。

4 PC Cardの動作モードを切り換える。

ROM SETUPの「PC Card動作モード」は、出荷状態で「PCIC互換モード」になっています。「CardBus」対応のPC Cardを使用される場合は、次の手順で「CardBusモード」に切り換えてください。
「CardBus」対応のPC Cardは単独でご使用ください。

「PCIC互換モード」→「CardBusモード」に切り換える

1. Windows 95を起動します。
2. フロッピーディスクドライブに、あらかじめ作成しておいた「ユーティリティディスク3」をセットします。
3. 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
4. 「名前（O）」に「A：\CARDBUS」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。
5. DOSウインドウのタイトルバーに「完了ー cardbus」と表示されたら、右上の［X］をクリックしてDOSウインドウを閉じてください。
6. 「スタートボタン」をクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
7. 「コンピューターの電源を切れる状態にする」を選択して、コンピューターの電源を切ってください。
8. 電源スイッチを入れ、［F1］キーを押してROM SETUPを起動します。
9. 「システム詳細設定」で「PC Card動作モード」を「CardBusモード」に切り換えます。
10. 設定を保存してコンピューターを再起動します。
11. Windows 95のPC Cardドライバーが「Ricoh RL5C476 CardBus Controller」になり、CardBusカードが使用できるようになります。

「CardBusモード」→「PCIC互換モード」に切り換える

1. Windows 95を起動します。
2. フロッピーディスクドライブに、あらかじめ作成しておいた「ユーティリティディスク3」をセットします。
3. 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
4. 「名前（O）」に「A：\PCIC」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。
5. DOSウインドウのタイトルバーに「完了ー pcic」と表示されたら、右上の［X］をクリックしてDOSウインドウを閉じてください。
6. 「スタートボタン」をクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
7. 「コンピューターの電源を切れる状態にする」を選択して、コンピューターの電源を切ってください。
8. 電源スイッチを入れ、［F1］キーを押してROM SETUPを起動します。
9. 「システム詳細設定」で「PC Card動作モード」を「PCIC互換」モードに切り換えます。
10. 設定を保存してコンピューターを再起動します。
11. Windows 95のPC Cardドライバーが「PCIC or compatible PCMCIA controller」になります。

5 ZV ポートご使用にあたって

本機にはPC Card スロットが２つありますが、ZV ポート対応は下のスロットのみです。

ZV ポートは、「PC Card 動作モード」を「PCIC 互換モード」に設定してご使用ください。

ZV ポート対応PC Card のドライバーソフトは、本機のPC Card コントローラ（株式会社リコー RL5C476）に対応していないものもありますので、購入される際に販売店にご確認ください。ZV ポート対応PC Card の操作方法は、PC Card に付属の取扱説明書をご参照ください。

6 ハイバーネーション用データエリアについて

【ハイバーネーション用データ・エリアとは？】

ハイバーネーション機能を利用する為には，あらかじめ、ハードディスク上にメイン・メモリやビデオ・メモリの内容を保存するためのデータ・エリアを確保する必要があります。必要となる容量は、およそ、

メイン・メモリの量＋2 MB

になります。

ハイバーネーション用データ・エリアは、「ファイル」として作成することも、「領域」として作成することも可能ですが、それぞれ制限事項があります。

- ●「ファイル」として作成できるのは、Windows 95 などで使用されるFAT12/16 ファイル・システム（単にFAT とも呼ばれます）に限られています。
  - Windows 95 のFDISK コマンドで、「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか」とメッセージが表示されたときにYES と答えると、FAT32 と呼ばれるファイル・システムが作成されますが、この場合、ハイバーネーション用データ・エリアをファイルとして作成することはできなくなります。
  - 「ドライブスペース」以外の方法でディスク圧縮を行う場合、正しく動作しないことがあります。
- ●「領域」(領域はパーティションと呼ばれる場合もあります)として作成した場合、使用するファイル・システムやディスク圧縮ソフトウェアに依存しません。ただし、確保されたデータ領域の大きさを変更する為、通常、ハードディスクの内容をすべてバックアップし，消去してから再インストールする必要が生じます。メイン・メモリーを増設した場合には、ハイバーネーション用のデータ・エリアを増やす必要があるため、特に注意が必要です。

出荷状態では、ハイバーネーション用データ・エリアは，96 MB のメイン・メモリーを保存できる「領域」として作成されています。

【ハイバーネーション用データ・エリアの作成】
ハイバーネーション用データ・エリアは、「AL-N2 保存ディスク」に含まれるHBUTIL. EXEで作成することができます。
HBUTIL. EXEは AL-N2保存ディスクで起動してご利用ください。Windows 95の「MS-DOSプロンプト」などから実行すると正常に機能しません。
また、HBUTILプログラムを実行して、ハイバーネーション用データ・エリアの作成や削除を行なった場合、必ず、すぐに再起動してください。
使用方法：HBUTIL オプション
P［サイズ］
F
D
I

オプション…

P［サイズ］

ハイバーネーション用データ・エリアを「領域」として作成します。
［サイズ］はメガバイト単位で、メイン・メモリーの容量を指定します。
［サイズ］を省略すると、現在の実装メモリに従って、領域を作成します。
［サイズ］に0を指定すると、ハイバーネーション用の「領域」を削除することができます。
（例）HBUTIL P64
メイン・メモリが64 MB（標準メモリー ＋32 MB DIMM）以下でハイバーネーション実行できる領域を作成します。

F

現在の実装メモリに従って、ハイバーネーション用データ・エリアを「ファイル」として作成します。ファイルは、「C:\HIBER. DAT」として作成されます。
このファイルを消すと、ハイバーネーションが実行できなくなります。

D

「ファイル」として作成されたハイバーネーション用データ・エリアを削除します。

I

ハイバーネーション・データ・エリアに関する情報を表示します。

エラー・メッセージ…

・まだディスクに領域管理情報が書き込まれていません。
最初にFDISKで領域管理情報を初期化してください。

このメッセージが出た時は、何らかの理由で、領域の管理情報が存在しません。一回、FDISKコマンドを使用して、領域の管理情報を初期化する必要があります。
まず、FDISK/MBRコマンドを実行し、続いてもう一度FDISKコマンドで存在している「基本MS-DOS領域」を削除してください。
再起動の後、もう一度、HBUTILコマンドを実行してください。

・十分な容量を持った空き領域が見つかりませんでした。

ハイバーネーション用データ・エリアを「領域」として作成する為には、十分な容量を持った空き領域が必要になります。
既存の領域を削除するなどして，空き領域を作成してください。

・このファイルシステムにハイバーネーション用ファイルを作成することはできません。

ファイルシステムがまだフォーマットされていないか、あるいはFAT12/16でありません。FAT32 などでハイバーネーションを実行するためにはハイバーネーション用データ・エリアは「領域」として作成する必要があります。

・ドライブCの空き容量が足りません。

指定されたドライブの不要なファイルを整理し、空きを作ってください。

メモリーの扱い方

メモリーの種類

本機は、以下の様なメモリー構成になっています。

メモリーマップ

領域	アドレス
基本メモリー	00000H
ビデオRAM	A0000H
ビデオBIOS	C0000H
	C9FFFH
メインBIOS	F0000H
拡張メモリー	100000H

■基本メモリー

最初の640KバイトのRAMは、基本メモリーと呼ばれます。MS-DOSが使用されているとき、アプリケーションプログラムは、通常基本メモリーで動きます。

■拡張メモリー

最初の1Mバイトより上位のメモリー領域は、拡張メモリーと呼ばれています。このメモリー領域は、80286以上のCPUでしか動かないOSやアプリケーションプログラムを動かすために使用されます。この領域で動く主なプログラムに、OS/2やWindowsがあります。

使用可能なメモリー容量

使用可能なメモリー容量は、増設RAMの容量によって異なります。

実装済み	RAMモジュールスロット	拡張メモリー
32Mバイト	―――	31744Kバイト
	16Mバイト	48128Kバイト
	32Mバイト	64512Kバイト
	64Mバイト	97280Kバイト

困ったときに開くページ

本機を動かそうとして、思ったとおりに動かないことがあります。おかしいな？と思ったら、このページを読んでください。また、ソフトウェアによる原因も考えられますので、Windows やアプリケーションソフトなど各ソフトウェアのマニュアルも参照してください。
どうしても原因がわからないときは、お買い上げになった販売店または当社ご相談窓口にご相談ください。

起動時の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作できない	●本体の AC アダプターは、本体の DC-IN Jack および電源コンセントに差し込まれていますか？ ●十分充電されたバッテリーパックが正しく入っていますか？ ●本体裏面のリセットスイッチを押して、本機を再起動させたあと正常に動作しませんか？ ●本体の AC アダプターおよびバッテリーパックをすべて外してから再度装着し、再起動させたあと正常に動作しませんか？ ●HDD 内容が破壊されていませんか？ ROM SETUP で「起動ドライブ」を「FDD→HDD」に設定。その後、外付けフロッピーディスクドライブにシステムディスクを挿入して再起動し、FDD からシステムを起動して HDD 内容を確認してください。
ディスプレイの画面に何も表示されない	●省電力機能によって、自動的にディスプレイが消えることがあります。いずれかのキーを押すと、元に戻ります。 ●ROM SETUP で外部モニターが選ばれていませんか？ 外部モニターに設定された状態で、サスペンド／ハイバーネーションを行った後、外部モニターを取り外して、リジュームを行っていませんか？このときは「Fn」キーを押しながら「F3」キーを押してみてください。
画面上の日付／時刻の表示が違っている	●コントロールパネルを使って、正しい日付／時刻を設定してください。 ●日付／時刻の情報を保持しているクロックバッテリー（リチウム電池）が切れかかっているおそれがあります。 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
ユーザーパスワードを忘れてしまった	●お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

操作中の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作中に本機が動かなくなった	●バッテリーパックを使って操作していたときは、バッテリーが切れたおそれがあります。AC アダプターを接続してください。 ●使っていたアプリケーションソフト上の問題でシステムが止まってしまった可能性があります。そのソフトウェアの使用を中止し、リセットスイッチを押し本機を再起動してください。
バッテリーインジケーターが赤く点灯している	●バッテリー残量がありません。AC アダプターを接続してください。 ●AC アダプターが正しく接続されていない可能性があります。正しく接続し直してください。
バッテリーインジケーターが赤く点滅している	●バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。正しく装着し直してください。 ●それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
使用中に「ピー・ピー」と音が鳴り始めた	●バッテリーが切れかかっています。AC アダプターを接続してください。
充電中にバッテリーインジケーターが消灯している	●AC アダプターとバッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。AC アダプターとバッテリーパックを取り外し再度正しく装着し直してください。 ●それでも消灯するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
バッテリーインジケーターの赤点灯時間が長い	●「バッテリーパックの使い方」（P.26）の「バッテリー容量を正確に表示させるために」を実施して、バッテリーを学習させてください。
バッテリー残量が100％になってもバッテリーインジケーターのオレンジ点灯が長く続く	●「バッテリーパックの使い方」（P.26）の「バッテリー容量を正確に表示させるために」を実施して、バッテリーを学習させてください。

ディスプレイ画面の問題

こんなときは	ここをお調べください
ディスプレイ画面が消えた	●省電力機能によって、スタンバイ状態になることがあります。スタンバイ状態では、いずれかのキーを押すと、元に戻ります。
残像が現れる	●イメージが画面に残ると、画面に焼きつき、残像となることがあります。これは、異常ではありません。別の画面が現れてしばらくたつと、残像は消えます。
画面に緑、赤、青のドットが残る	●これらのドットが残るのは、カラー液晶ディスプレイの特質です。故障ではありません。

ドライブの問題

こんなときは	ここをお調べください
フロッピーディスクドライブにアクセスしない	●外付けフロッピーディスクドライブが正しく接続されていますか？ ●フロッピーディスクは正しくセットされていますか？ ●フロッピーディスクは初期化されていますか？ ●ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていませんか？
フロッピーディスクが初期化できない	●コマンドを正しく入力しましたか？　また、コマンドパラメーターに誤りはありませんか？ ●ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていませんか？
ハードディスクドライブにアクセスしない	●ハードディスクを正しく準備していますか？ ●原因がわからない場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
プリンターが動かない	●ケーブルが本体・プリンター間で正しく接続されていますか？ ●プリンターの電源は入っていますか？ ●プリンターがオンライン状態になっていますか？ ●ROM SETUPで、「パラレルポート」を「378」、「278」または「3BC」に設定してください。 ●適切なプリンタドライバーが選択されていますか？
マウスが使えない	●マウスケーブルが本体に正しく差し込まれていますか？ ●マウスのデバイスドライバープログラムがロードされ、動いていますか？ 詳しくは、お使いのアプリケーション、またはマウスのプログラムのマニュアルを参照してください。 ●マウスがシリアルポートに接続されている場合は、ROM SETUPで「トラックボール」を「無効」に設定して下さい。その後、「シリアルポート」を「3F8（IRQ4）」か「2F8（IRQ3）」に設定してください。 ●PS/2マウスが外部キーボード／マウスポートに接続されている場合は、ROM SETUPで「トラックボール」を「無効」に設定して下さい。
トラックボールが使えない	●マウスのデバイスドライバープログラムがロードされ、動いていますか？ 詳しくは、お使いのアプリケーションプログラムのマニュアルを参照してください。 ●ROM SETUPの「トラックボール」設定が「有効」になっていますか？

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
PC カードが使えない	●カードは正しくセットされていますか？ ●当社指定以外のカードを使用していませんか？ ●適切なドライバープログラムがインストールされていますか？ ● PC カードが使用している I/O アドレス、IRQ ナンバー、チャンネルを確認し、設定し直してください。 **〈I/O アドレス〉** 以下のアドレスをさけて設定し直してください。 I/O:0000H-00FFH (システムボード) 1F0H-1F7H (ハードディスクドライブ) 220H-22FH (サウンド)*4 240H-24FH (サウンド)*4 260H-26FH (サウンド)*4 278H-27FH (パラレルポート)*2 280H-28FH (サウンド)*4 2F8H-2FFH (赤外線通信ポート)*1 330H-331H (サウンド) 370H-371H (サウンド) 378H-37FH (パラレルポート)*2 388H-38BH (サウンド) 388H-389H (FM)*4 398H-399H (FM)*4 3B0H-3BBH (VGA) 3BCH-3BFH (パラレルポート)*2 3C0H-3DFH (VGA) 3E0H-3E1H (PC カードコントローラー) 3F0H-3F7H (フロッピーディスクコントローラー) 3F8H-3FFH (シリアルポート)*3 530H-538H (サウンド)*5 640H-648H (サウンド)*5 E80H-E88H (サウンド)*5 F40H-F48H (サウンド)*5 *1 赤外線通信（IrDA）ポートアドレスは、ROM SETUP で 2F8H、3F8H、“ 無効 ” のいずれかに設定できます。 *2 パラレルポートアドレスは、ROM SETUP で 278H, 378H, 3BCH, “ 無効 ” のいずれかに設定できます。 *3 シリアルポートアドレスは、ROM SETUP で 3F8H, 2F8H, “ 無効 ” のいずれかに設定できます。 *4 サウンドポートアドレスは、ROM SETUP で 220H , 240H, 260H, 280H のいずれかに設定できます。 *5 サウンドポートアドレスは、ROM SETUP で 530H , 640H, E80H, F40H のいずれかに設定できます。 **〈IRQ ナンバー〉** 以下のいずれかに設定してください。 IRQ ： 3*1，4*2，7*3，9，10，11，15 *1 IRQ3 は、通常、COM2（赤外線通信ポート）が使用しています。 *2 IRQ4 は、通常、COM1（シリアルポート）が使用しています。 *3 IRQ7 は、通常、プリンターに使用されます。 PC カードで、IRQ3 または IRQ4 を使用するときは、ROM SETUP でシリアルポートまたは赤外線通信（IrDA）ポートを「無効」にしてください。

Internet Explorerについて

Internet Explorer 4.0は機能が豊富なため、コンピューターに負担がかかり正常に動作しなくなることがあります。主な問題に対する対処法を以下にまとめています。
（問題の解決には、Internet Explorer 4.0の各ヘルプも参照してください。）

●正常に再起動できない・起動に時間がかかる

［コントロールパネル］→［画面］→［Web］タブをクリックし、
「Internet Explorerチャンネルバー」の横の□をクリックしてチェックマークをはずし、［OK］をクリックします。

●アプリケーションのアップグレード（インストール）ができない

Windows起動時に表示される「ようこそーMicrosoft Internet Explorer」の画面の「次にログインするときも、このダイアログを表示する」の横の□をクリックして、チェックマークをはずしてからコンピューターを再起動します。

●正常に動作しない

［コントロールパネル］→［画面］→［背景］タブをクリックし、「壁紙」の選択で「なし」を選んで、［OK］をクリックします。

●上記の操作を行っても問題が解決しない

以下の手順で、Internet Explorer 4.0を削除してください。
削除する前に必ず上記3つのの操作を行ってください。
行わないと、削除中にエラーが発生することがあります。
手順 ***2*** の操作を行わなかった場合、ネットワーク環境におけるトラブルが発生します。必ず、行ってください。

1. Internet Explorer 4.0の削除

［コントロールパネル］→［アプリケーションの追加と削除］→［セットアップと削除］で［Microsoft Internet Explorer 4.0］を選び、［追加と削除］を選ぶ。以降は、画面の指示に従って操作する。

2. ドライバーデータベースの更新

①［コントロールパネル］の［ネットワーク］アイコンをダブルクリックする。
「ネットワーク」画面が表示されます。
②［OK］をクリックする。
データベースが作成された後、ファイルのコピーが行われます。
途中、「バージョンの競合」画面が表示されたら、［はい］をクリックしてください。

補足

Internet Explorer 3.02のセットアッププログラムは、付属の「Windows 95 CD-ROM」の「OTHER」-「IE302」フォルダに入っています。必要に応じてインストールしてください。

自己診断プログラム

DIAG プログラム

DIAG プログラムを使うと、本機各部の動作のテストをすることができます。

お願い

・ハードディスクを圧縮して使用しているとテストできません。
・保存ディスクで設定している項目以外のテストやテスト内容を変更して動作させないでください。
・VIDEO の画面モードテストでは正常なら［y］キーを、異常であれば［n］キーを入力してください。

1. フロッピーディスクドライブ以外のすべての周辺機器を取り外し、AC アダプターを接続します。

2. ROM SETUP の設定をデフォルト設定にします。

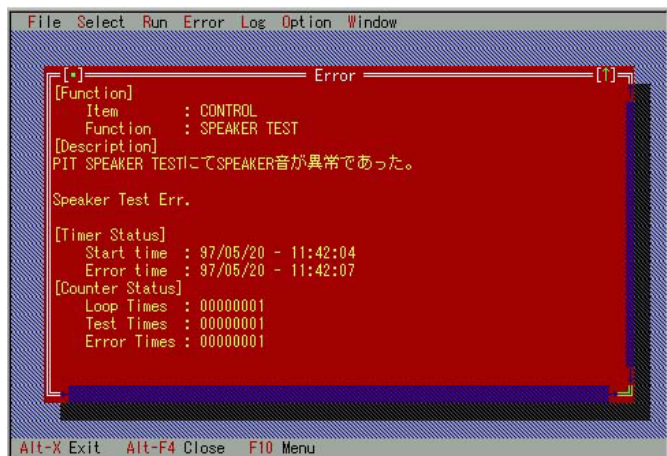
3. フロッピーディスクドライブに「AL-N2 保存ディスク」をセットし、本機を起動します。

4. プロンプト（A:¥）に続けて、以下のように入力します。

DIAGN2A［ENTER］

5. 自己診断プログラムが起動し、テストが始まります。（テストに 10 分程度かかります）

6. テストが正常の場合は、PASS と画面に出力されます。

7. エラーが発生した場合は、赤い画面の中に、テスト項目（[Function]）・エラー内容（[Description]）・開始終了時刻（[Timer Status]）・ループ／テスト／エラー回数（[Counter Status]）が表示されます。次に、スピーカテストでのエラー出力を例として示します。

8. 自己診断プログラムを終了するときは、[ALT] キーを押しながら [X] キーを押してください。

主なテスト内容

テスト項目	内容
CPU	キャッシュ
RAM	基本／拡張メモリの Read/Write
CONTROL	DMA, PIC, RTC, PIT 等
IO	キーボード、マウス
COMMUNICATION	シリアルポート、パラレルポート
AUX	PCIC
VIDEO	VRAM の Read/Write, 画面モード
DISK	ハードディスクドライブ
UNIQUE	ECP, EPP, CMOS

付録

BIOS が表示するエラーメッセージ一覧

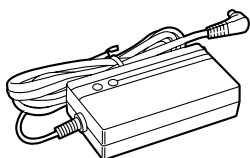
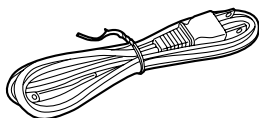
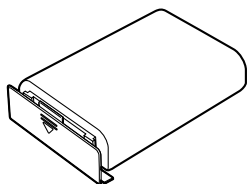
BIOS のエラーが発生した場合は、起動時に以下のようなエラーメッセージが表示されます。
各エラーメッセージの意味は以下のとおりです。

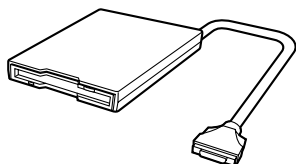
エラーメッセージ	意味
Internal cache failure	CPU 内蔵キャッシュメモリのエラーです
External cache failure	キャッシュメモリのエラーです
062 Boot failure ー default configuration used	7 回以上連続して自己診断プログラム（POST）が中断され、システムボードにデフォルト設定が行われました。
101 System Board Failure	割り込みコントローラーのエラーです。
102 System Board Failure	タイマーのエラーです。
106 System Board Failure	フロッピーディスクコントローラーのエラーです。
151 System Board Failure	リアルタイムクロックのエラーです。
161 Bad CMOS Battery	CMOS バッテリーのエラーです。
162 Configuration Error	CMOS の設定が誤っています。
162 Configuration Change Has Occurred	システム設定が変更されました。
163 Date and Time Incorrect	日付・時刻が設定されていません。
164 Memory Size Error	メモリ・サイズが変更されたと判断されました。
201 Memory Size Error	メモリのデータエラーです。
604 Diskette Drive Error	フロッピーディスクドライブのエラーです。
1780 Hard Disk Error	ハードディスクのエラーです。
8603 Pointing Device Error	トラックボールかシステムボードのエラーです。
その他のエラーメッセージ	自己診断プログラムがエラーを発見しました。

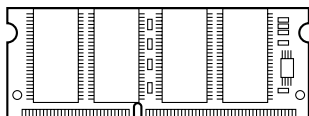
別売オプション部品について

別売のオプション部品も販売しております。お買い上げの販売店へご相談ください。

■オプション部品

オプションACアダプターセット

品番：AL-NFAA020J

バッテリーパック

品番：AL-NFBL020J

外付けフロッピーディスクドライブ

品番：AL-NFFE020J

DIMM

32M DIMM　品番：AL-NFMC320J

64M DIMM　品番：AL-NFMC640J

本体仕様

機種		AL-N2T520J5
CPU		MMX® テクノロジ Pentium® プロセッサ 200 MHz
メモリー	メイン RAM	標準：32 Mバイト、最大：96 Mバイト（64 Mバイト DIMM 装着時）
	外部キャッシュ	256 kバイト（パイプラインバースト SRAM）
	ROM	256 kバイト
	ビデオメモリー	2 Mバイト
ハードディスクドライブ		2.1 Gバイト
表示機能	テキスト表示	80文字×25行
	グラフィック表示	解像度：800×600ドット 色数：16 M色（LCD表示時260 k色）
	漢字表示	日本語40文字×25行
入力装置	キーボード	総数88キー
	フラットパッド	光学式トラックボール
インターフェース	プリンター	セントロニクス準拠 D-sub 25ピン
	RS-232C 規格	RS-232C D-sub 9ピン
	拡張キーボード マウス テンキーボード	PS/2タイプ
	EXT, DISPLAY	アナログ RGB D-sub 15ピン
	音声	マイク入力（MIC ミニ M3）×1 ヘッドホン出力（PHONES ミニ M3）×1
	赤外線通信ポート	IrDA-SIR 準拠、最大115.2 kbps/ASK
カードスロット	PC カード専用	タイプII×2スロット　または　タイプIII×1スロット Card Bus ZV Port *6 サポート（5 Vで600 mA *1／12 Vで100 mA *1）
	RAM モジュール専用	1スロット
オーディオ機能		PCM 音源（Sound Blaster Pro 互換）FM 音源　スピーカー搭載
時計機能		クロックバッテリーバックアップ　月差±60秒
電源	入力	AC アダプター15.1 V（入力 AC100 V、50/60 Hz）*4 バッテリーパック10.8 V（Li-Ion）
	消費電力 *2	約29 W（約18 W *3）
バッテリー稼働時間		標準約3時間 *7（省電力モード設定、バッテリー2本時）
外形寸法（幅×奥行×高さ）		255×192×39 *5mm
質量		1.39 kg（1.54 kgバッテリー2本のとき）
使用環境条件		温度：5〜35 ℃　湿度：30〜80 %RH（結露なきこと）
導入済みソフトウェア		Microsoft® Windows95®、　Microsoft® Internet Explorer、 Nifty Manager、AOL for Windows、各種ドライバーなど
フロッピーディスクドライブ		外付け1ドライブ－3.5インチ（1.44 M/1.2 M/720 kバイト）

RAM モジュール（DIMM）は、EDO 及びセルフリフレッシュのメモリーを使用したモジュールに限り使用できます。
ハードディスク・ドライブの容量は1Gバイト＝10^9バイト表記です。

*1　2スロット合計の許容電流です。
*2　動作中の最大消費電力です。
*3　電源オフ時、バッテリー充電中の表記です。
　　（電源オフ、バッテリー充電終了時、AC アダプターは約1.2W の電力を消費しています。）
　　また、電源オフ時、バッテリーの消費電力は約60 mW です。
*4　AC アダプター本体は AC240V まで対応の設計をしております。
　　AC コードは、AC125V 対応のコードを同梱しております。
*5　デザイン上の都合で高さが41mm の部分があります。
*6　ZV port は下スロットだけサポートしております。
*7　バッテリー稼動時間は、動作環境・システム設定により変わります。

さくいん

◆ま行◆

◆や行◆

◆ら行◆

保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください。

転居や贈答品などでお困りの場合は…

・お買物・商品仕様・資料請求・その他ご相談は、**「お客様ご相談センター」**へ！
・操作方法・技術的なお問い合わせは、**「テクニカルサポートセンター」**へ！
・修理は、サービス会社・販売会社の**「修理ご相談窓口」**へ！

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から１年間

■修理を依頼されるとき

『困ったときに開くページ』に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、パーソナルコンピューターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後６年です。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理料金の仕組み

修理料金は、 技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、 診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、 修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

・FPANAPC*1 アクセスについてのご相談は、「Let's note Station」へ！
*1 パソコン通信 NIFTY SERVE のユーザーフォーラムでユーザーどうしによる情報交換などが行われています。
・Let's note のホームページ*2 では製品紹介、FAQ など情報掲載やご購入ユーザー様のご愛用者登録を行っております。
*2 [お気に入り] → [Panasonic お勧めのサイト] → [Lest's note ホームページ]

お買物・商品仕様・資料請求相談窓口

お客様ご相談センター

0120-878-365（パナは 365日）

フリーダイヤル（料金無料）365日／受付9時〜20時

操作方法・技術相談窓口

パナソニックパソコン テクニカルサポートセンター

0120-873029（フリーダイヤル パナソニック）

受付日および時間
月曜日〜金曜日（祝・祭日を除く）10時〜17時

通信ネットワークおよびご来店技術相談窓口

Let's note Station

東京都千代田区外神田6丁目13番10号
（ミクニ・イーストビル2F）

TEL 03-3834-8896
E-mail webmaster@spo.mei.co.jp
jdr00524@niftyserve.or.jp

受付日および時間
月曜日〜金曜日（祝・祭日を除く）
10時〜12時　12時45分〜17時

修理ご相談窓口

北海道地区

地区	電話	住所
札幌	☎(011)894-1251	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7
旭川	☎(0166)31-6151	旭川市2条通21丁目左1号
函館	☎(0138)53-7107	函館市山の手1丁目1-15

東北地区

地区	電話	住所
青森	☎(0177)39-9712	青森市大字八ッ役字矢作1-37
秋田	☎(0188)26-1600	秋田市御所野湯本2丁目1-2
岩手	☎(0196)39-5120	盛岡市羽場13地割30-3
宮城	☎(022)375-2512	仙台市泉区市名坂字清水端59-2
山形	☎(0236)41-8100	山形市流通センター3丁目12-2
福島	☎(0243)34-1301	福島県安達郡本宮町字南/内65

首都圏地区

地区	電話	住所
栃木	☎(028)632-8450	宇都宮市中央1丁目8-13
群馬	☎(0273)52-1217	高崎市萩原町沖中205-18
両毛	☎(0276)25-6870	太田市東新町244-1
水戸	☎(029)225-0119	水戸市柳河町309-2
つくば	☎(0298)64-8090	つくば市花畑2丁目8-1
埼玉	☎(048)728-8960	桶川市赤堀2丁目4-2
千葉	☎(043)251-3537	千葉市稲毛区園生町369-1
船橋	☎(047)334-5111	船橋市本中山6丁目11-7
柏	☎(0471)63-8905	柏市北柏1丁目6-6
東京	☎(03)5477-9780	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
山梨	☎(0552)22-5171	甲府市下飯田2丁目1-27
神奈川	☎(045)847-9720	横浜市港南区日野5丁目3-16
新潟	☎(025)286-0171	新潟市東明1丁目8-14
佐渡	☎(0259)23-2898	両津市秋津字境108-1
長岡	☎(0258)28-2111	長岡市寺島町308-12
上越	☎(0255)44-6871	上越市大字藤野新田字大割353-3

中部地区

地区	電話	住所
石川	☎(0762)94-2683	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80
富山	☎(0764)32-8705	富山市寺島1298
福井	☎(0776)54-5606	福井市開発4丁目112
長野	☎(0263)58-0073	松本市大字笹賀7600-7
静岡	☎(054)287-9000	静岡市西島765
名古屋	☎(052)614-3136	名古屋市南区西又兵衛町3丁目48
岡崎	☎(0564)55-5719	岡崎市岡町南久保28
岐阜	☎(058)323-6010	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30
三重	☎(0592)55-1380	久居市森町字北谷1920-3

近　畿　地　区

滋賀 ☎ (0775)82-5021 守山市勝部町２６０ **京都** ☎ (075)672-9636 京都市南区上鳥羽 石橋町２０-１	**大阪** ☎ (06)359-6225 大阪市北区本庄西 １丁目１-７ **奈良** ☎ (0743)59-2770 大和郡山市椎木町 ４０４-２	**和歌山** ☎ (0734)75-1311 和歌山市中島４９９-１ **兵庫** ☎ (078)272-6645 神戸市中央区 琴ノ緒町３丁目２-６

中　国　地　区

鳥取 ☎ (0857)26-9695 鳥取市安長２９５-１ **米子** ☎ (0859)34-2129 米子市米原４丁目 ２-３３ **松江** ☎ (0852)23-1128 松江市西津田２丁目 １０-１９	**出雲** ☎ (0853)21-3133 出雲市渡橋町４１６ **浜田** ☎ (0855)22-6629 浜田市下府町 ３２７-９３ **岡山** ☎ (086)292-1162 岡山県都窪郡早島町 矢尾８０７	**広島** ☎ (082)295-5011 広島市西区南観音 ８丁目１３-２０ **山口** ☎ (0839)86-4050 山口市鋳銭司 字鋳銭司団地北 ４４７-２３

四　国　地　区

香川 ☎ (0878)74-6200 香川県綾歌郡 国分寺町新名６６３-１ **徳島** ☎ (0886)98-1125 徳島県板野郡北島町 鯛浜字かや１０８	**高知** ☎ (0888)66-3142 南国市岡豊町中島 ３３１-１	**愛媛** ☎ (089)971-2144 松山市土居田町 ７５０-２

九　州　地　区

福岡 ☎ (092)593-9036 春日市春日公園 ３丁目４８ **佐賀** ☎ (0952)26-9151 佐賀市本庄町大字 本庄８９６-２ **長崎** ☎ (0958)30-1658 長崎市東町１９４９-１	**大分** ☎ (0975)56-3815 大分市萩原４丁目 ８-３５ **宮崎** ☎ (0985)85-6530 宮崎県宮崎郡清武町 下加納３３６-２ **熊本** ☎ (096)367-6067 熊本市健軍本町 １２-３	**鹿児島** ☎ (099)250-5657 鹿児島市与次郎 １丁目５-３３ **大島** ☎ (0997)53-5101 名瀬市矢之脇町 １０-１５

沖　縄　地　区

沖縄 ☎ (098)868-0131　那覇市西２-２４-１５

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0997